

# 昭和 58 年度の稻作

昭和 58 年 12 月

農業改良普及所

## はじめに

当管内は、県内でも有数の水田作地帯で、稲作を基幹とした複合経営が展開されている農業地域であり、本年は12,143ha余りの水稻が作付けされています。

稻は、気象や立地の制約を受けながら生育をしますが、本年の稲作期間の気象は、必ずしも順調な経過ではありませんでした。特に8月中旬以降の気象は、登熟の劣化に大きく影響したものと思われ、作柄は、収量・品質ともに不満足な結果となりました。

しかし、こうした中にあっても、優れた成果をあげている多くの経営体や集団があり、個人間・地域間で差異が見られます。組織的な集団活動をもって、地域全体の水準向上を工夫することが大切であります。

なお、近年は機械化稻作体系が確立し、労働生産性が向上した反面、機械経費が増加して生産コストが高くなっています。作業規模の拡大や複合化によって、機械の負担面積を拡大し、作業量の増大を図ることが重要であります。

水田利用再編対策は、第2期の最終年であり、転換畠作物の定着化が進み、収益も次第に増大してきています。

今後とも耕地の有効土層を深くして腐植を増す土つくりを基本として、土地の性質を徹底的に利用し、そこに優れた技術力を投入しながら「良質米生産を軸とした複合農業の推進」に尽力をお願いします。

本資料が関係者から利用をいただきて、地域の農業生産力の向上と農家経済の発展にいささかなりとも役立つならば幸いです。

おわりに、資料をまとめるに当たって、ご協力・ご助言をいただいた関係各位に対し、深く感謝申し上げます。

昭和58年12月

巻農業改良普及所長 藍沢喜久治

# 目 次

## はじめに

### I 稲作期間の気象と作況

1. 昭和58年稲作期間の気象.....	1
2. 作 態 ..... 3. 気象条件と水稻の生育..... 4. 作柄要因図.....	2 3 4

### II 技術の動向と問題点

1. 品 種..... 2. 育 苗..... 3. 移植と本田生育..... 4. 施 肥..... 5. 地 力..... 6. 水 管 理..... 7. 除草及び中耕..... 8. 病 害 虫..... 9. 収穫、乾燥、調製、米質.....	5 5 6 7 8 10 11 12 13
--	---

### III 次年度稲作改善指針および参考資料

1. 次年度稲作改善対策..... 2. 生産集団を軸とした630運動..... 3. コシヒカリの期待生育相と栽培基準.....	17 18 19
---	----------------

### IV 付 表

1. 昭和58年度水稻生育調査は成績..... 2. 昭和58年度稲作期間の気象..... 3. 昭和58年水稻品種別作付状況..... 4. 昭和58年度産米検査成績..... 5. 水稻土壤中直播栽培実施状況..... 6. 農家経済の動向（西蒲原）..... 7. 昭和58年度管内におけるコシヒカリ団地設置状況..... 8. 水田利用再編対策関係.....	21 28 30 32 33 34 36 39
--	--

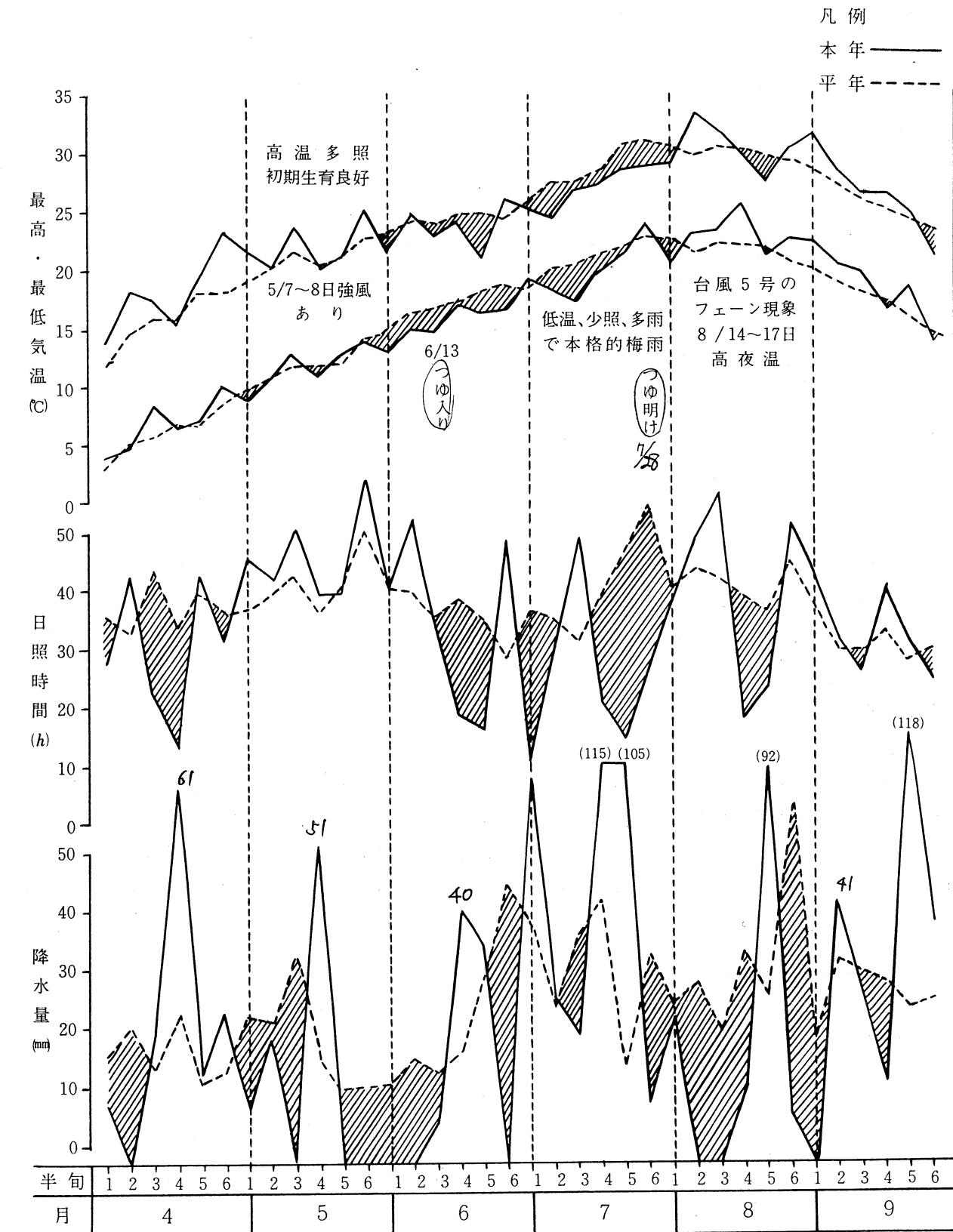
## I 稲作期間の気象と作況

1. 昭和58年稲作期間の気象
2. 作況
3. 気象条件と水稻の生育
4. 作柄要因図

# I 稲作期間の気象と作況

## 1. 昭和58年稲作期間の気象

(観測場所: 新潟県農業大学校)



第1図 昭和58年稲作期間の気象

## 2. 作況

### (1) 県下の作況

- ・作付面積は、147,500haで転作緩和などで前年より2,300ha増加している。
- ・10月15日現在、10a当たり収量は501kg、作況指数99の「平年並み」で予想収穫量は73万9,000tで、作付面積の増加にもかかわらず、前年より2万400tの減少が見込まれる。

第1表 昭和58年産予想収穫量

区分	作付面積	10a当たり 収量	収穫量	作況指数	対前年差		10a当たり収量 対前年比
					作付面積	収穫量	
県計	147,500ha	501kg	739,000t	99	2,300ha	△ 20,400t	96%
下越	65,100	532	346,500	100	1,400	8,200	100
中越	25,700	508	130,600	96	300	△ 10,600	91
魚沼	17,400	457	79,500	100	200	△ 3,900	94
上越	30,900	465	143,600	98	200	△ 12,400	92
佐渡	8,410	461	38,800	95	170	△ 1,700	94

(註) 下越は前年の風害のため本年の作況指数上がる。

・県計の作付面積はラウンドの数字となる。

### (2) 管内の作況

本年の水稻状況は田植後の多照、少雨で初期生育良好で初発分けつが早く多げつとなった（6月15日現在で平年比113%）6月中旬よりやや低温の較差大きく一時的に退色が見られた。

最高分けつ期3～5日遅れ、幼穂形成期も1～2日遅れとなった。

草丈は短草、多げつ型で有効茎歩合は並～やや低い、m<sup>2</sup>当たり穂数は前年を下回ったものの平年より多い。

1穂粒数は幼穂伸長期の低温、少照で少なめとなったが、穂数が多くm<sup>2</sup>当たり粒数はやや増加した。登熟は早生の出穂最盛期にあたる8月3日以降の夏型気象により、早生の登熟スタートは良好であったが、8月14～17日にかけて台風5号による高夜温、8月第4、5半旬の日照不足、6半旬から9月第1半旬の高温等で稲体の老化を早め粒の充実が著しく阻害された。一方中生は千粒重の増加順調であったが、全般を通じ作柄は予想を下回る結果となり品質も低下した。

第2表 管内における水稻作況

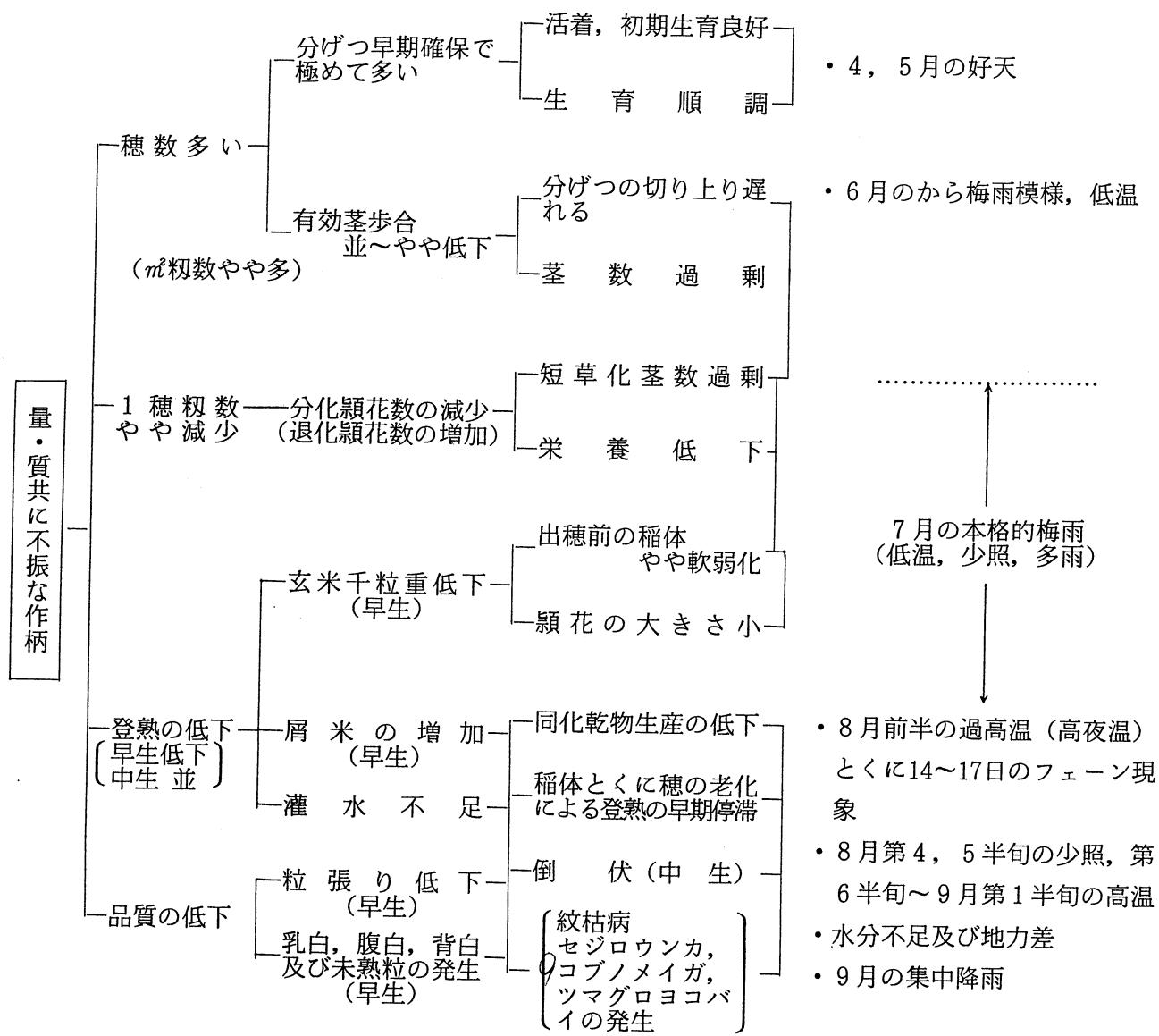
区分	本年	前年	平年	指 数	
				前年比	平年比
早生	550kg	597kg	569kg	92.1	96.7
中生	530	547	535	96.9	99.1
平均	543	581	558	93.5	97.3

## 3. 気象条件と水稻の生育

第3表 昭和58年度の気象と生育の特徴

	気象の特徴	生育の特徴
育苗期 → 田植期	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月2, 6半旬前年、平年より気温高め</li> <li>4月3, 4半旬日照時間少ない</li> <li>5月上旬高温、多照、少雨</li> <li>5月7～8日強風あり</li> <li>5月降雨日数5日間75mmで少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>稚苗、中苗出芽良好</li> <li>苗の生育はやや徒長傾向であったが生育良好</li> <li>田植期は好天で田植作業順調</li> <li>活着良好（一部強風時の田植は植傷み）</li> </ul>
分げつ期	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月中旬以降は多照、少雨で気温が周期的に変化（16～17日雨量多い）</li> <li>6月は低温、少雨で梅雨模様</li> <li>梅雨入り 6月13日（4日遅い）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初期生育良好で初発分けつは早く、早期に茎数確保</li> <li>短草多げつ型で出葉やや早い</li> <li>6月4, 5半旬の低温、少照のためか、葉の退色がやや早めで低下は緩慢</li> <li>最高分けつ期やや遅れる（7月1日）</li> <li>6月末の生育は短草多げつ型</li> </ul>
幼穂形成期 → 出穂期	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月は低温、少照、多雨で本格的梅雨</li> <li>7月の真夏日2日、最低気温20℃以下18日日照時間平年の61%</li> <li>梅雨明け 7月28日（8日遅い）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼穂形成期、早生1～2日遅れ中生並となる</li> <li>7月の低温、少照で生育鈍化（7月2～4半旬の出葉日数 12～13日）</li> <li>穗肥はやや遅い傾向となった</li> <li>有効茎歩合並～やや低い</li> <li>出穂期 早生2～3日遅れ 中生平年並</li> </ul>
登熟期	<p style="text-align: right;">台風5.6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>8月3日以降夏型気象 14～17日はフェーン現象による高夜温</li> <li>8月4, 5半旬は低温、少照、8月6半旬～9月上旬は高温多照で変動大</li> <li>9月第3半旬以降平年並、下旬多雨</li> <li>9月7～8日大雨</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早生は出穂15日後より登熟緩慢、フェーン現象の過高温、高夜温で粒の老化すすみ、登熟が早期に停滞し低下する</li> <li>中生は登熟初期からほぼ順調9月7～8日の大雨で倒伏目だつ</li> <li>生育型 短稈で穂数並～やや多い</li> <li>1穂粒数低下、m<sup>2</sup>当たり粒数やや多い</li> <li>早生粒張り低下、乳白、腹白、背白多い</li> </ul>

#### 4. 作柄要因図



## II 技術の動向と問題点

1. 品種
2. 育苗
3. 移植と本田生育
4. 施肥
5. 地力
6. 水管理
7. 除草及び中耕
8. 病害虫
9. 収穫、乾燥、調製、米質

## II 技術の動向と問題点

### 1. 品種

#### (1) 作付品種の動向

新潟早生の減少

○ 管内の奨励品種の作付率は71.6%で前年より1.0%減少し、また銘柄米品種は66.6%でこれも前年より2.1%減少した。(付表3参照)

品種個々では、コシヒカリが第1位で31.5%，次いで新潟早生は前年に引き続いて伸び21.2%（前年比+1.6%）となり、新奨励品種のはつこじいは3.1%165ha（前年比+1.6%）作付された。アキヒカリは前年よりさらに増加し19.8%（前年比+1.5%）となった。越路早生は前年同様減少（前年比-2.5%）の一途をたどっている。 P.30参考

市町村別の銘柄米品種の作付をみると西川町が86.4%と最も高く次いで潟東村、巻町の順である。銘柄米の主力品種のコシヒカリは、団地化の指導により作付が伸び西川町が36.4%次いで巻町、吉田町の順となっている。

#### (2) 作付上の問題点

ア、はつこじいは本年より新らしく奨励品種に編入し、低品質米のアキヒカリに代る、強稈、良質品種として登場した。管内では数年前から作付されているが今後多収をあげるには、穂数及び粒数の増加と登熟の向上が伴なわないと品種本来の特性が発揮できない。

イ、新潟早生の作付が増加し早生の主力品種となったが、本年は紋枯病、白葉枯病の発生や米質低下が問題になった。品種の特性に合った栽培管理の徹底による作柄、米質の安定が望まれる。

ウ、作付品種中アキヒカリの占める割合が高く、またトップの市町村もあり新潟米生産運動の推進上からしても、増加傾向にあるアキヒカリをはじめとする低品質米品種を駆逐して、西川米としての向上が急務である。

### 2. 育苗

#### (1) 育苗様式

稚苗育苗が全体の97.1%（前年比+0.2%）となり、その分中苗育苗が減少している。

○ 稚苗育苗で無加温育苗が34.5%（前年比+10%）と大巾に増加しており、省力、低コストで兼業農家にも波及してきた。様式は平床出芽が増加している。

第4表 育苗様式の推移（移植面積割合）

項目		年次	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58
機械移植	稚苗	37.1	48.8	59.7	74.6	84.0	87.9	90.6	96.5	96.9	97.1	
	中苗	9.6	17.8	17.5	14.6	10.1	7.9	6.9	3.0	2.7	2.5	
	計	46.7	66.6	77.2	89.2	94.1	95.8	97.5	97.5	99.6	99.6	
成苗		53.3	33.4	22.8	10.8	5.9	4.2	2.5	0.5	0.4	0.4	

(卷普及所)

## (2) 播種

播種の最盛期は4月の第2日曜日にはほぼ固定してきているが、無加温育苗の増加により、早まる傾向にある。

箱当たり播種量は減少し、健苗育成への意欲がうかがえるが、まだ全般に厚播きである。

第5表 播種状況と播種量

様式 年次	稚苗			中苗			播種量
	播種期 始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	
本年	月日 4. 7	月日 4. 10	月日 4. 18	月日 4. 6	月日 4. 9	月日 4. 13	130 g
前年	4. 7	4. 11	4. 18	170	4. 6	4. 10	130
平年	4. 7	4. 13	4. 20	190	4. 9	4. 13	140

(卷普及所)

## (3) 育苗の経過と苗質

育苗期間を通じて高温多照に推移し出芽、苗立ち、その後の生育も順調で苗の生育は2~3日進んだ。育苗後期(4月第6半旬)に高温(平年比+5°C)になり、やや徒長苗となった。

育苗障害は全般に少なかったが、一部にハウスの換気不足から、苗やけや後期にムレ苗の発生がみられた。

一方、無加温育苗では、灌水不足や被覆資材の組み合せ、温度管理の不備等から出芽不良や苗やけが散見された。

## (4) 問題点

ア、播種量は減少傾向にあるが、一層目標(160g/箱)に近づける。

イ、高温年次における苗質劣化の防止をはかるため、ハウス管理の徹底をはかる。

ウ、無加温育苗での、障害は出芽、苗立ちの時点で発生しており、灌水や温度管理、被覆資材等の基本技術の徹底をはかる。

## 3. 移植と本田生育

### (1) 移植期

移植時期は5月の連休に固定しつつあり、移植最盛期で平年比3日の早まりであった。

1株植込み本数は減少の傾向にあるが、まだ多目である。

第6表 移植時期

様式 年次	稚苗			中苗		
	移植期 始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
本年	月日 5. 1	月日 5. 4	月日 5. 8	月日 5. 7	月日 5. 10	月日 5. 12
前年	5. 1	5. 4	5. 8	5. 7	5. 10	5. 12
平年	5. 5	5. 7	5. 10	5. 9	5. 12	5. 18

(卷普及所)

## (2) 本田生育

5月第1~3半旬は高温、多照に経過したため、全般に活着は良好であった。(5月7~8日の強風時に移植されたものは植えいたみした)

5月第3半旬以降は多照、少雨で気温は周期的に変化した。このため初発分げつは5月第5半旬と早く、生育は順調であったため、目標茎数は昨年並みに6月第3半旬にはば確保され、早期茎数確保型となった。

6月は全般に低温、少雨で6月末の生育は短草、多げつ型となり、最高分げつ期はやや遅れ、有効茎歩合は並からやや低くなった。

## (3) 問題点

ア、高温年次においては、苗の劣化をまねくため育苗日数と本田準備の両面から調節する。

イ、1株植え込み苗数が多く、過剰分げつとなるので、植え込み苗数の適正化をはかるため播種量の規制と移植時の田植機の調整をはかる。

## 4. 施肥

### (1) 本年の動向

近年、農家の施肥慣行は、品種の耐肥性を考えて元肥(全層)→根付け→(つなぎ肥)→穗肥→(実肥)の体系が一般化してきているが、これは判断しにくい気象条件や、地力の減退、それにコシヒカリを基幹とした銘柄米の倒伏防止等を考慮した対応技術として定着したものである。本年も、この体系での施肥が目だった。

### (2) 育苗における施肥

本年の施肥量は、施肥基準に従って稚苗1箱当たりN-1.2~1.6g, P-1.8~2.4g, K-1.5~2.0g中苗では1箱当たりN, P, Kともに2.4~3.0g施用されており、量的には年次変動が殆んどみられない。

また、田植3~4日前に植え傷み防止や活着促進をねらって1箱当たりN-0.5~1.0gの追肥(ベンツウ肥)がおこなわれた。

### (3) 本田における施肥

#### ア、元肥

元肥についての考え方とは、コシヒカリを基幹とした銘柄米に標準をおいた少肥(元肥N-2.0~2.5kg+根付けN-1.5~2.0kg)と新潟早生やアキヒカリに代表される強稈型東北系品種に対する多肥(元肥N-5.0~6.0kg+根付けN-1.5~2.0kg)及びその他の品種に対する標準型施肥(元肥N-3.5~4.5kg+根付けN-1.0~1.5kg)の凡そ3つに分類される。

本年も概ね、品種や地力により、このような施肥が行われていたものと推察出来る。

また肥料については、元肥には化成肥料が主として施用され、根付け肥には硫安、尿素、塩安等のN単肥が同成分の塩加と合わせたかたちで主に施用されている。 $N+P \rightarrow N+K$

しかし、コシヒカリには元肥にコシヒカリ配合が一部にみられるようになった。

#### イ、中間追肥

本年は5月上旬の田植期からの好気象で活着初期生育は良好で、6月10日にはば有効茎(必要

茎数)を確保したは場が多かった。しかし、6月中～下旬には茎数過剰の場合は葉色の退色が目立ちN-0.5～1.0kg+K-1.0kg程度のつなぎ肥が施された。

#### ウ、穂 肥

7月上～中旬の穂肥期まで気温は低めに経過したため、強稈品種を除いては穂肥は少な目に施されていたが数回に分施され、トータルでは昨年並みの(N-2.0～2.5kg, K-2.5～3.5kg)量が施用されたものと推定される。

穂肥は普通単肥の形で施用されてきたが、最近は配合、化成の施用が目だつようになった。

#### エ、実 肥

本年も昨年と同様な短稈な草型となり、加えて梅雨明け後高温、高夜温が続いたことによってイネの老化防止を兼ねた実肥がN-1.0～2.0kgの範囲で施された。

#### (4) 問題点

ア、乾田化とともに、作土内地力は漸減しており、元肥少肥の場合はイネの生育観察が大切な要点となっている。

しかし、その観察が十分でないため、不適正なつなぎ肥穂肥の施用が目だつようになった。

イ、穂肥は速効性肥料を必要とするが、元肥の残りの化成肥料を使っているのが認められる。

ウ、強稈品種で多肥による過繁茂がかなり見られる。

### 5. 地 力

#### (1) 地力の培養

稻ワラの土壤還元は秋の不良気象で秋鋤き込み及び大型ワラ収集機による収集も少ない。

第7表 管内における稻ワラの処理状況(58年秋期)

項目 年次	水田に還元		家畜の飼料及び しきワラ	果樹、や さいのしき ワラ堆肥	焼却 (1/2以上)	ワラ加工 及び販売	その他の (未処理)	作付面積
	稻ワラ すき込み	堆肥						
58年	2%	3%	3%	4%	20%	4%	64%	12,143ha
57年	10	3	6	7	70	4	0	11,956
平年	21	10	8	4	54	3	0.8	13,938

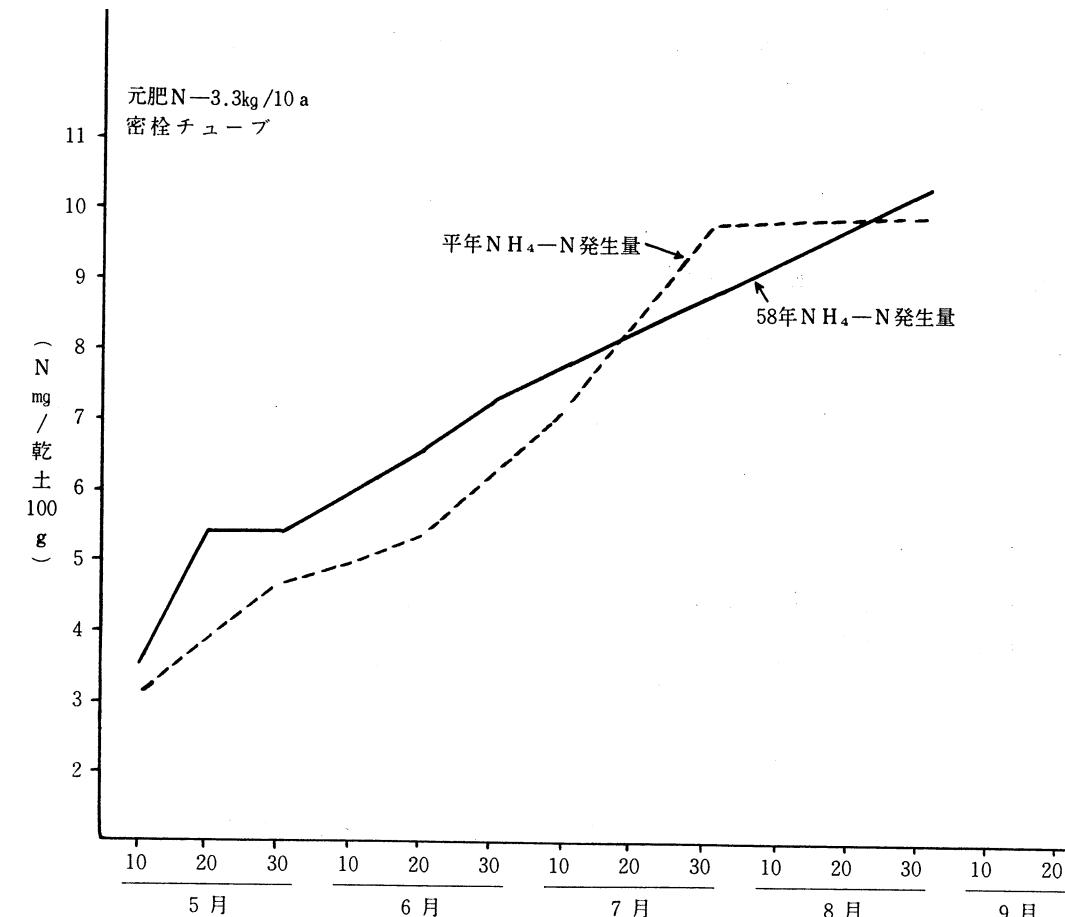
(卷普及所)

第8表 稲ワラの大型機械による組織的回収状況

年次	集団名	分水酪農	吉田 稻作集団	弥彦 稻作集団	岩室東部 酪橋本団地	巻 畜産集団	西川 鎧郷酪農	升瀬 稻作集団	潟東 今井酪農
58年		30ha	48ha	3ha	60ha	16ha	26ha	1.0ha	22ha
57年		70	25	12	83	23	50	30	35
56年		19	—	—	28	3	3	6	15
55年		75	56	16	37	46	20	30	38
54年		50	39	13	23	25	31	30	17
53年		59	58		24			21	
52年		123	53		60			44	
51年		60	30		20				11

(卷普及所)

#### (2) 地力窒素の発生状況



第2図 土壤中におけるNH<sub>4</sub>-N発生量(卷町葉薦場)

ア、5月中の高温、多照6月の多照条件で初期の発生が多く、5月中で全体の52%発生し、初期生育の良さがうかがえる。

50%発生日は平年より10日早まった。

イ、6月20日から7月30日までの発生量は平年4.4mgに対して、2.6mgと平年の59%の発生で低温の気

象条件とともに短草化の要因となり、つなぎ肥施用がされた。

ウ、8月中に1.1mgの発生があり、全体としては平年比やや多目となった。

### (3) 地力の改善対策

管内各市町村で土壤改良マップづくりが進んできている。

有効に活用して地域にあった生ワラ及び土壤改良資材の施用により土壤環境づくりを進める必要がある。

## 6. 水 管 理

過去の問題点の一つに初期除草剤との兼ね合いで長期深水管理による初期生育の停滞が挙げられていたが、本年はその点目だったものはなかった。

### (1) 活着期～本田初期

整地が均一化されたため、部分的深水による生育の不均衡は少なくなり、初期除草剤使用後のやや深水管理も3～5日間くらいで浅水管理に切り換えられた。これが地温上昇効果につながり初期生育を良好にさせた要因ともなっている。

### (2) 分げつ期

活着期の5月10日から中干しに入る6月15日までの天候は晴天30日、曇天5日、雨天2日となっており、浅水管理による茎数の早期確保が順調に得られた。

### (3) 溝切り作業

中干しの効果を高める技術として溝切りが普及しており、一般には6月12日～15日までに実施したところが多い。

### (4) 中 干 し

6月15日から7月5日頃まで一般に実施されたが、この間の気温は低めに推移し、降雨日も多く十分な中干しも出来ないままに終った。また、この時期に中干しとは逆に深水による分げつ抑制をこころみる技術も一部にみられた。

### (5) 間断灌水

中干しが不十分に終ったのち、引き続き間断灌水に入ったが、7月28日まで真夏日（最高気温30℃以上）は1日もなく、涼しい夏となり、これも十分ではなかった。

第9表 溝切り、中干実施状況

項目 年次	溝 切 り		中 干 時 期			平均中干 日 数
	時 期	実 施 率	始 期	盛 期	終 期	
本 年	6月10日～17日	40%	6月15日	6月23日	7月5日	15日
前 年	6月12日～15日	40	6月15日	6月21日	6月26日	7日
平 年	6月18日～20日	30	6月18日	6月23日	6月30日	11日

### (6) 幼穂形成期～出穂期

極早生品種の早いものは7月1日に、コシヒカリは7月12日に幼穂形成に入ったが、これら幼穂の成長期は日照に恵まれず、しかも気温も低目だった。そのため、排水不良の水田では落水するか、根水程度の灌水をしているほ場が多くみられた。

### (7) 登 熟 期

7月28日に梅雨が明け、翌日からは漸く30℃を越す夏らしい気象となった。登熟期の灌水状況は、一般には出穂後約2週間にわたりやや深水に管理されているが、一部中干し不十分のほ場では、刈取り作業を考え、軟弱な田面を硬化するため早めの落水がみられ、これが8月14日から3日間続いた台風5号によるフェーン現象で、特に極早生種においては穂の老化が進み、登熟の早期停滞をまねく等の悪影響を受けた。

### (8) 用排水管理の問題点

ア、一般に水稻栽培についての水の効用が良く理解されていない。従って根の活力を考えた水の入れ換えや、水深の加減による温度の調整等、大切な技術としての対応が十分でないものが多かった。  
イ、収穫機械の運行を心配するあまり、登熟最盛期に落水されているほ場が意外に多く、これが登熟不良に大きく結びついていた。

ウ、灌排水のスピードアップを図るために溝切りが有効であるが、不完全なものが見られる。  
エ、ワラ鋤込みほ場の水の更新が不十分である。

## 7. 除草及び中耕

除草剤による処理体系が定着したことにより全般的には除草効果が高まっている。本年使用された主要除草剤は次のとおりである。

第10表 主要除草剤使用状況

初 期 除 草 剂		中 期 除 草 剂	
除 草 剂 名	使 用 割 合	除 草 剂 名	使 用 割 合
マーシェット粒剤	70%	マメットSM粒剤	60%
エックスゴーニ粒剤	10	サターンS粒剤	15
M O 粒 剤	7	グラキール粒剤	5
そ の 他	6	クミリードSM粒剤	3
		そ の 他	10
体系是正剤 (一発処理剤) クサカリン、オーザーなど 7%			

注：使用割合は普及所推定値である

- (1) 初期除草剤はマーシェット粒剤が主体で急増し、エックスゴーニ粒剤MO粒剤が減少傾向にある。移植後の散布が多く、初期生育が良好であったため薬害は少なく除草効果も高まった。
- (2) 中耕除草は動力除草機（溝立機）が導入されているが、雑草の発生が少ないため、土壤環境の改善を目的とした中耕除草は殆んどみられなかった。
- (3) 中期除草剤はマメットSM粒剤が主体であり、サターンS粒剤、グラキール粒剤、クミリードSM粒剤

は減少傾向にある。

除草剤散布時期の5月28日から6月1日まで5日間最高気温が25°Cとなつたため、生ワラ施用などによる異常還元状態にあった場で生育抑制や下葉の枯上がりがみられた。

(4) 後期除草剤は24-D, MCPが使用されているが、コシヒカリなどの倒伏防止を目的としたものが多い。

#### (5) 問題点

ア、管内の水田で発生がみられる雑草は、コナギが近年増加している。多年生の雑草では、ミズガヤツリ、ウリカワ、マツバゴケなどの発生面積が多い。発生面積は少ないが、ホタルイ、クログワイが増加をみせている。

イ、本年より体系是正剤の使用が多くなっているが、長期間の効果を持続させるためには水管理との関係が大きく、除草剤の効果を過大評価して失敗した例がみられた。

ウ、近年畦畔の補修が行われていないため、漏水による除草効果の低下や、隣接場への薬害発生が問題となっている。

### 8. 病害虫

管内に発生をみた主要病害虫は下表のとおりで、紋枯病、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの被害があった。

第11表 主要病害虫の発生状況

病害虫名	発生程度	被害程度	主な発生地域	被害面積
ニカメイチュウ (1~2世代)	少	少	全域	0ha
セジロウンカ	多	中~多	角田、弥彦、国上山麓地域	2,000
コブノメイガ	多	多	角田、弥彦、国上山麓地域 (アキヒカリ、新潟早生)	1,000
ツマグロヨコバイ	多	中~多	峰岡、松野尾、西川町	1,000
イネミズゾウムシ	一	少	松野尾、西川町	0
いもち病 (葉いもち、穂いもち)	少	少	全域 コシヒカリ、越路早生	0
紋枯病	少~中	少~中	全域 アキヒカリ、新潟早生	2,500
イネ白葉枯病	少	少	局部的 新潟早生	0

注：被害面積は普及所推定値である

#### (1) 病気

- いもち病（葉いもち、穂いもち）は発生は認められたが、被害は殆んどなかった。
- 紋枯病はアキヒカリ、新潟早生などに多発したが防除の徹底により、被害を最少限度にとどめた。
- イネ白葉枯病は各地に発生が認められ、品種的には新潟早生の罹病がめだった。

#### (2) 害虫

- ニカメイチュウは1~2世代とも発生が少なく被害もなかった。
- セジロウンカ、コブノメイガが7月5半旬に角田、弥彦、国上山麓地域で大量の飛来がみられ、

8月第2~5半旬にかけて多発し、被害がでた。

特に葉色の濃いアキヒカリ、新潟早生に被害が多くなった。

- ツマグロヨコバイは巻町（峰岡、松野尾）西川町北部地域の常発地に多発し、薬剤防除を実施したが十分な効果があげられなかった。
- イネミズゾウムシは巻町100ha、西川町400haに発生が確認され発生の多い松野尾地区で20haの防除を実施した。防除効果及び被害程度は調査不足のためあきらかでない。

#### (3) 防除

基幹防除として航空防除を実施している6市町村と地上防除が2村（弥彦村、潟東村）である。

第12表 市町村航空防除実施状況

市町村名	回数 時期	1	2	3	4	5	計	降雨による再散布面積
		6月中~下旬	7月上~中旬	7月下旬	8月上旬	8月下旬		
燕市	ha	1,776	1,766	1,768	1,766	ha	7,066	60
分水町	ha	1,656	1,624	1,626	1,626	ha	6,532	
吉田町	ha	1,532	1,520	1,488	1,516	ha	6,056	140
岩室村	ha	1,230	1,235	1,230	1,230	ha	4,925	98
巻町	ha	2,351	623	2,352	2,350	↓	7,676	90
西川町	ha	955	878	1,055	1,002	230	4,120	
計	ha	9,490	7,646	9,519	9,490	230	36,375	388

本年は防除時期の降雨により日程の変更や再散布事故が多かった。

基幹防除4回以外に紋枯病、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの発生で個人及び集団防除が実施された。

### 9. 収穫、乾燥、調製、米質

#### (1) 刈取、脱穀

出穂期はやや遅れたものの、登熟期が高温に経過したため刈取時期は下表のとおりとなった。

第13表 刈取始期、盛期、終期の比較

年次	始期(5%)	盛期(50%)	終期(95%)	備考
本年	月 日 9. 6	月 日 9. 15	月 日 9. 20	本年 刈取始め 9月2日
前年	月 日 9. 5	月 日 9. 16	月 日 9. 23	刈取終り 9月26日
平年	月 日 9. 4	月 日 9. 14	月 日 9. 25	

このところ穂肥、実肥が多く施用される傾向にあるため、早生の刈取時期は、前年、平年に比較して1~2日遅れた。

8月27日から9月6日までの連続高温乾燥で地耐力が高まりコンバインの走行には支障はなかった。

収穫期の天候は刈取期間の9月6日から20日までの15日間で9日も降雨があった。しかし夜間の降

雨であり、昼間の作業には大きな支障とならなかったが午前中は高水分状態であるため、選別能力の低下により例年なくコンバインロスが多くみられた。

コシヒカリの倒伏は9月7日、12日、16日の降雨で、各地にみられたが収穫期が間近であったことや穗揃期追肥の施用で稈のいたみが少なかったため、刈取作業は比較的容易であった。

9月下旬の天候に不安があることや出稼など条件があるため年々コシヒカリの刈取時期が早まってきている。

## (2) 乾燥、調製

乾燥機、調製機の性能が向上したことや、使用技術もよくなっている。

乾燥は生穀持込時の水分が高かったので乾燥時間が長くなり未熟粒が多いため、水分測定値に変動が大きく、水分過多を恐れるため、やや過乾燥になった傾向はみられるが、胴割米や水分過多米は多くなかった。

調製は、品質向上意識が高まり、調製用始前の水分確認、ロール間げきの点検など十分注意がなされているため肌ずれ米、糲混入などは少なくなっている。

選別は、ライスグレーダーの普及により選別はよくなっているが、本年産米は早生種の品質が不振であり選別のみでは品質向上にならなかった。

## (3) 米 質

P32参考

### ア 概 要

(食糧事務所吉田支所の所見)

本年は7月の低温、8月のフェーンで作柄を悪くし、米質においても全般的に充実度、粒形ともに前年に比べて劣り乳白粒、腹白粒、背白粒、基部未熟粒、死米の混入を多く出し米質を著しく低下させた。

11月10日現在の1等比率は、昭和56年の73.5%（台風で米質低下年次）にも及ばない70.1%であった。これは前年同期の86.5%に対し16.4%の落ち込みである。（昭和58年度米の検査成績は付表4を参照されたい）

### イ、主要品種別の品質の概要

#### (ア) 越路早生

乳白粒、腹白粒の混入が散見され、縦溝が深く粒厚が薄く充実度が劣った。

#### (イ) コシヒカリ

前年に比べて乳心白粒の混入が多かったが、充実粒形、粒揃いはほぼ前年並みであった。

#### (ウ) トドロキワセ

乳白粒及び基部未熟粒の混入が極めて多く、充実度、粒形ともに劣り、2等以下に格付けされたものが多かった。

#### (エ) 新潟早生

乳白粒及び基部未熟粒、背白粒、死米の混入が極めて多く充実度、粒形ともに劣り、2等以下に格付けされたものが多かった。

#### (オ) はつこじ

1等比率  
昨年 89.0  
本年 46.1

前年に比べ充実度、粒形ともに劣ったが乳心白粒、青未熟粒等の混入が比較的少なかった。

#### (カ) アキヒカリ

一部地域に白死米、基部未熟粒の混入が多かったが、全体的に青未熟粒の混入が散見された程度で、形質はほぼ前年並みであった。

#### (ア) こがねもち

充実度、粒形はほぼ前年並みで発芽粒は前年に比べて少なかった。うるち米の混入が散見された。

#### (ク) ヒデコモチ、ヒメノモチ

充実度、粒形はほぼ前年並みであったが、有色粒及び胴割粒、うるち米の混入が散見された。

#### (ケ) 脇割粒

年々減少の傾向にあるが、乾燥機の取扱い不注意による発生が散見された。

#### (イ) 着色粒

生もみの堆積によるヤケ米の発生は極く稀であったが、カムシ、シンガレセンチュウによる部分着色粒が散見された。

#### (ウ) 発芽粒

前年に比べて発生が少なかった。

#### (エ) もみ混入

全体的に充実度が劣ったため、細もみの除去が困難であったと思われるが、もみ混入による格下げが散見された。

### III 次年度稲作改善指針及び参考資料

1. 次年度稲作改善対策
2. 生産集団を軸にした630運動
3. コシヒカリの期待生育相と栽培基準

### III 次年度稻作改善指針及び参考資料

#### 1. 次年度稻作改善対策

##### (1) はじめに

昭和58年稻作は、生育前半期の好天とからつゆ模様で初期の生育は良好であったが、6月下旬からの低温、8月中旬の高温フェーン、ウンカ、コブノメイガの異常発生等があり、天候の推移に見合った、肥培管理と病害虫防除等の対応がとられたが、量、質ともに「やや不良」の作柄となった。

しかし作柄不振は、単なる稻作期間が不良気象と病害虫の異常発生の影響のみにかたづけるわけには行かない。

作柄不振の中にも、優良事例があり地域差、個人差が大きかったことも指摘され、対応技術が米プラス兼業経営が多い中で、基本技術の励行が不十分であった事を反省しなければならない。

管内は、県内でも屈指の米産地域であり、米をとりまく厳しい情勢の中で、産地として生き残るために、良質米の安定生産と生産費の低減を図らねばならぬ。

このため昭和59年は、良質米の高位安定生産とあわせた一層の生産費の低減を図るため、コシヒカリ団地の育成や生産組織等の集団を重点に前年度に引き続き630運動をすすめる。

さらに地域生産体制の見直しと、再編成強化を図りながら、地域の立地条件を活用した「新潟米を軸とした複合営農推進運動」を推進する。

##### (2) 改善目標と推進事項

項目	目標	推進事項
1) 水稲奨励品種普及率	80%以上	・消費地に不評のアキヒカリなどの低品質米品種の作付を計画的に(はつこしじ)に転換する。
2) 銘柄米品種作付率	75%以上	・コシヒカリ、越路早生(ホウネンワセ、越みのり)トドロキワセ、新潟早生を地域に適合配置する。
3) 10アール当たり収量	600kg	・収量水準の向上～不振地域農家のレベルアップ
4) 1等米出荷率	85%以上	・銘柄米の高位安定生産(特に新潟早生の品質向上)
5) コシヒカリ生産団地の育成	100団地	・集落内の話し合いと検討による団地化の推進 ・複合営農推進集落の設置
6) 生産費の低減	60kg当たり 20%引下げ	・生産単位の拡大(生産集団の営農対応) ・単収の増加(高位安定生産の推進) ・農業機械、施設の計画的導入と耐用年数延長 ・無加温育苗の導入、土壤中直播栽培の検討
7) 土づくりの推進	30地区	・土づくりマップの利活用 ・土壤条件に適合した土づくりの推進 ・耕畜連けいによる厩肥生産とワラ焼き防止

## 2. 生産集団を軸にした 630 運動

### 重点スローガン

#### (1) 160 g 播種量の徹底

優良種子の導入と適正な予措、均播うす播（160 g / 箱当たり）励行による健苗の育成。

#### (2) 6, 15中干しの推進

健苗による初期生育の促進をはかり、6月15日（目標茎数の凡そ80%）に溝切り、中干しを実施し生育調節をはかる。

#### (3) 8, 30コシヒカリ落水日の設定

コシヒカリの作付目標を40%とし、良質、安定多収のため、出穂後25日を落水の目標とする。  
ただし高温フェーンが続く場合は9月5日まで延長する。

#### (4) 稲ワラ全面積30%鋤き込みの推進

水稻作は土づくりと太陽エネルギーの活用にある。肥沃な沖積土壤も次第に地力が低下している。  
土地条件を検討し稻ワラ鋤き込みを3年周期に一巡するようつとめる。

#### (5) 生産コスト20%の低減

- ・生産単位の拡大（生産集団対応による機械の利用面積の拡大）
- ・单収の増加（高位安定生産の推進）
- ・農業機械、施設の計画的導入と耐用年数延長
- ・無加温育苗の導入、土壤中直播栽培の検討
- ・立地条件を生かした複合営農の推進

### 3. コシヒカリの期待生育相と栽培基準

成構量収	
収量	目標収量
穂数	475本 ( $m^2$ )
1穂粒数	72粒
登熟歩合	82%
千粒重	21.5g

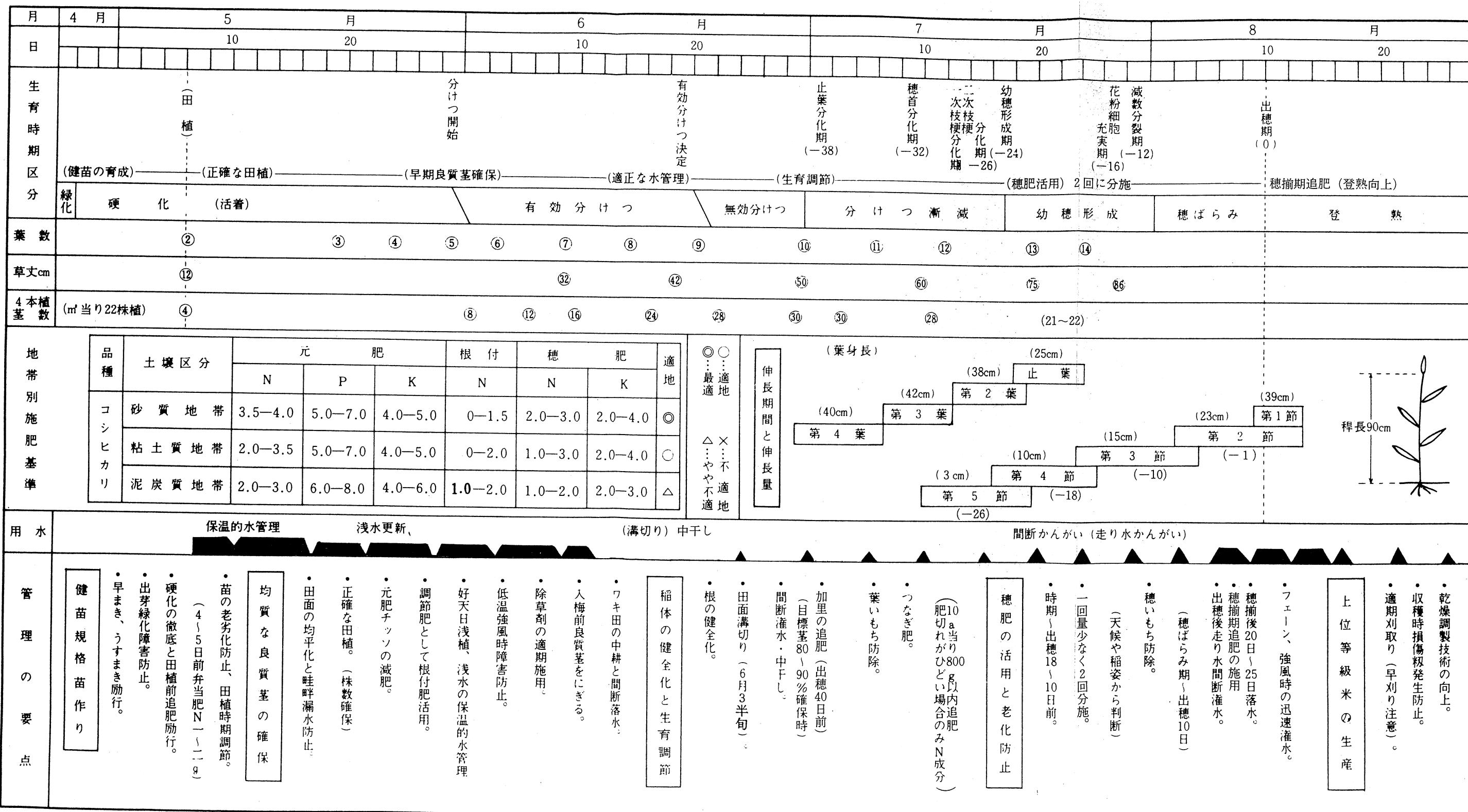
## 栽培の七つのポイント

- (1) 適地～土性が砂壤土から埴壤土で9月上旬まで通水できるほ場。
  - (2) 苗作り～薄まき均播し(160g)、硬化後期は外気温にならし、また箱当たり  
1～2g、N追肥をする。
  - (3) 田植～早植えし、植付本数4～5本植にする。
  - (4) 施肥～Nに敏感な品種であるから、元肥を控え穗肥も数回に分施する

- (5) 水管理 ~ 目標茎数80~90%の段階で溝切と中干しを行ない、根の健全化と  
土壤硬度の維持に努める。

(6) 倒伏防止 ~ 調節の効く施肥量と、適確な中干し、また必要に応じ2.4—D等  
の施用を考える。

(7) 登熟向上 ~ 穂肥の適量施用と、出穗後20日以上の灌水  
(実肥)



## IV 付 表

1. 昭和58年度水稻生育調査ほ成績
2. 昭和58年度稻作期間の気象
3. 昭和58年水稻品種別作付状況
4. 昭和58年度産米検査成績
5. 水稻土壤中直播栽培実施状況
6. 農家経済の動向（西蒲原）
7. 昭和58年度管内におけるコシヒカリ団地設置状況
8. 水田利用再編対策関係

## IV 付 表

### 1. 昭和58年度水稻生育調査成績

#### (1) 苗質調査

品種 年次	草丈(cm)			第一葉鞘長(cm)			葉数(枚)			生体重(g/100本)		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
越路早生	11.9	15.8	15.0	3.8	4.9	—	2.1	2.1	2.1	6.3	7.7	7.3
対比		75.3	79.3		77.6	—		100	100		81.8	86.3
新潟早生	12.1	11.4	—	4.0	3.5	—	2.2	2.3	—	6.4	7.6	—
対比		106.1			114.3	—		95.7			84.2	
コシヒカリ	14.2	13.9	14.5	4.2	4.5	—	2.1	2.2	2.1	7.7	7.8	6.7
対比		102.2	97.9		93.3	—		95.5	100		98.7	114.9
参考 はつこじ	17.1	—	—	4.5	—	—	2.2	—	—			

品種 年次	乾物重(g/100本)			風乾物重(%)			充実度(乾物重/草丈)		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
新潟早生	1.06	1.5	1.3	16.8	19.5	17.6	0.89	0.9	0.85
対比		70.7	81.5		86.2	95.5		98.9	104.7
新潟早生	1.27	1.4	—	19.8	18.4	—	1.05	1.2	—
対比		90.7			107.6	—		87.5	
コシヒカリ	1.21	1.5	1.3	15.7	19.2	19.7	0.85	1.1	0.9
対比		80.7	93.1		81.8	79.7		77.3	94.4
参考 はつこじ									

#### (2) 本田育成調査

品種 年次	月日											
	調査項目			草丈(cm)			茎数(本/m <sup>2</sup> )			葉数(枚)		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
越路早生			24.1		28.5	23.2	269	261	179	6.3	6.1	5.5
対比			84.6		103.9			103.1	150.3		+0.2	+0.8
新潟早生	23.9		27.4		—	220	263	—		6.2	6.1	—
対比			87.2					83.7			+0.1	
コシヒカリ	24.7		29.6		24.9	27.6	255	174	6.3	6.4	5.6	
対比			83.4		100.8			108.2	158.6		-0.1	+0.7
参考 はつこじ	26.1		—		—	246	—	—		6.3	—	—

品種 年次	月日											
	調査項目			草丈(cm)			茎数(本/m <sup>2</sup> )			葉数(枚)		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
越路早生	31.3	35.7	30.3	540.6	543	375.5	7.9	7.9	7.0			
対比		87.1	102.6		99.6	144.0		0		+0.9		
新潟早生	29.1	32.8	—	402.8	541	—	7.9	7.8	—			
対比		88.7			74.5			+0.1				
コシヒカリ	30.9	36.0	30.7	498.2	520	380.5	7.9	8.0	7.2			
対比		85.8	100.7		95.8	130.9		-0.1		+0.7		
参考 はつこじ	32.8	—	—	445.2	—	—	7.9	—	—			

月日 調査項目 品種 年次	6 / 20								
	草丈(cm)			茎数(本/m²)			葉数(葉)		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
越路早生	38.0	41.8	41.9	727	775	643.5	9.2	9.1	8.7
対比		90.9	90.7		93.8	113.0		+0.1	+0.5
新潟早生	34.2	37.4	—	621	734	—	9.2	9.1	—
対比		91.4	—		84.6	—		+0.1	—
コシヒカリ	37.4	41.7	42.5	672	710	587	9.2	9.2	8.5
対比		89.7	88.0		94.6	114.5		0	+0.7
はつこじ	39.4	—	—	687	—	—	8.9	—	—

(3) 成熟期調査

月日 調査項目 品種 年次	稈長(cm)			穗数(本/m²)			穗長(cm)			葉数(枚)		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
越路早生	85.0	86.3	89.4	596	616	485	19.3	17.0	18.2	13.3	13.0	13.0
対比		98.5	95.1		96.8	122.9				113.5	106.0	+0.3
新潟早生	59.6	64.0	—	499	503	—	18.8	18.1	—	13.2	13.0	—
対比		93.1	—		99.2	—				103.9	—	+0.2
コシヒカリ	85.2	90.5	95.3	515	545	473	19.2	17.5	18.1	13.3	13.4	13.7
対比		94.1	89.4		94.5	108.9				109.7	106.1	-0.1
はつこじ	66.4	—	—	647	—	—	19.8	—	—	12.0	—	-0.4

月日 調査項目 品種 年次	6 / 25								
	草丈(cm)			茎数(本/m²)			葉数(葉)		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
越路早生	42.7	47.6	48.8	774	855	677	9.9	9.6	9.4
対比		89.7	87.5		90.5	114.3		+0.3	+0.5
新潟早生	39.7	43.4	—	681	861	—	9.9	9.8	—
対比		91.5	—		79.1	—		+0.1	—
コシヒカリ	40.7	47.6	49.1	653	757	626	9.7	9.8	9.4
対比		85.5	82.9		86.3	104.3		-0.1	+0.3
はつこじ	45.6	—	—	683	—	—	9.2	—	—

月日 調査項目 品種 年次	最高分け期(月日)			有効茎歩合(%)			幼穂形成期(月日)			出穂期(月日)		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
越路早生	7.5	6.25	6.26	74.4	72.1	67.7	7.6	7.4	7.6	7.31	7.28	7.28
対比		+10	+9		+2.3	+6.7		+2	0		+3	+3
新潟早生	7.1	7.1	—	67.4	58.2	—	7.7	7.6	—	7.30	7.29	—
対比		0	—		+9.2	—		+1	—		+1	—
コシヒカリ	7.1	6.25	6.28	72.7	72.0	73.7	7.16	7.14	7.17	8.9	8.7	8.10
対比		+6	+3		+0.7	-1.0		+2	-1		+2	-1
はつこじ	6.20	—	—	94.2	—	—	7.2	—	—	7.27	—	—

月日 調査項目 品種 年次	7 / 1								
	草丈(cm)			茎数(本/m²)			葉数(葉)		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
越路早生	53.1	52.9	55.6	778	771	685	10.3	10.2	10.1
対比		100.4	93.5		100.9	113.6		+0.1	+0.2
新潟早生	46.7	47.4	—	740	865	—	10.4	10.5	—
対比		98.5	—		85.5	—		-0.1	—
コシヒカリ	47.2	52.2	54.9	708	734	632	10.1	10.4	9.9
対比		90.4	86.0		96.5	112.0		-0.3	+0.2
はつこじ	50.4	—	—	657	—	—	10.0	—	—

月日 調査項目 品種 年次	成熟期(月日)		
	本年	前年	平年
越路早生	9.7	9.2	9.5
対比	+5	+2	—
新潟早生	9.11	9.8	—
対比	+3	—	—
コシヒカリ	9.20	9.16	9.21
対比	+4	-1	—
はつこじ	9.5	—	—

ア. 節間表

月日 調査項目 品種 年次	第1節間長(cm)			第2節間長(cm)			第3節間長(cm)		
------------------------	-----------	--	--	-----------	--	--	-----------	--	--

調査項目		第5節間長(cm)		
年次		本年	前年	平年
越路早生	0.5	2.1	2.5	
対比		23.8	20.0	
新潟早生	0.2	0.4	—	
対比		50.0	—	
コシヒカリ	2.1	2.5	5.3	
対比		84.0	39.6	
はつこじ	1.6	—	—	

#### イ. 葉身長

調査項目		止葉			2葉			3葉			4葉		
年次		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
越路早生	24.6	25.3	25.0	36.2	36.8	34.3	40.5	36.8	40.0	36.3	42.5	35.4	
対比		97.2	98.4		98.4	105.5		110.1	101.3		85.4	102.5	
新潟早生	27.7	20.2	—	33.8	25.0	—	38.8	30.1	—	29.9	27.6	—	
対比		137.1	—		135.2	—		129.0	—		108.3	—	
コシヒカリ	28.6	26.1	25.7	34.8	35.0	35.1	38.7	37.6	39.7	32.2	35.0	37.7	
対比		109.6	111.3		99.4	99.1		102.9	97.5		92.0	85.4	
はつこじ	26.9	—	—	39.1	—	—	34.3	—	—	30.6	—	—	

#### ウ. 枝梗数

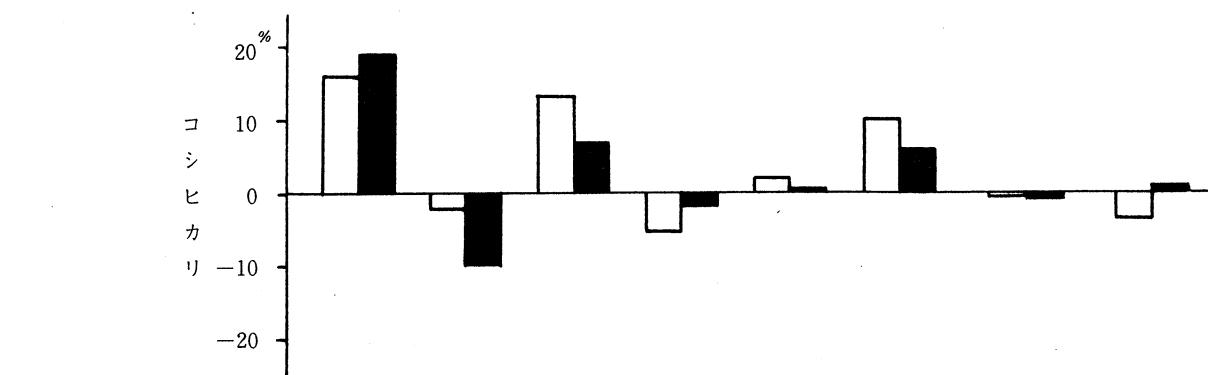
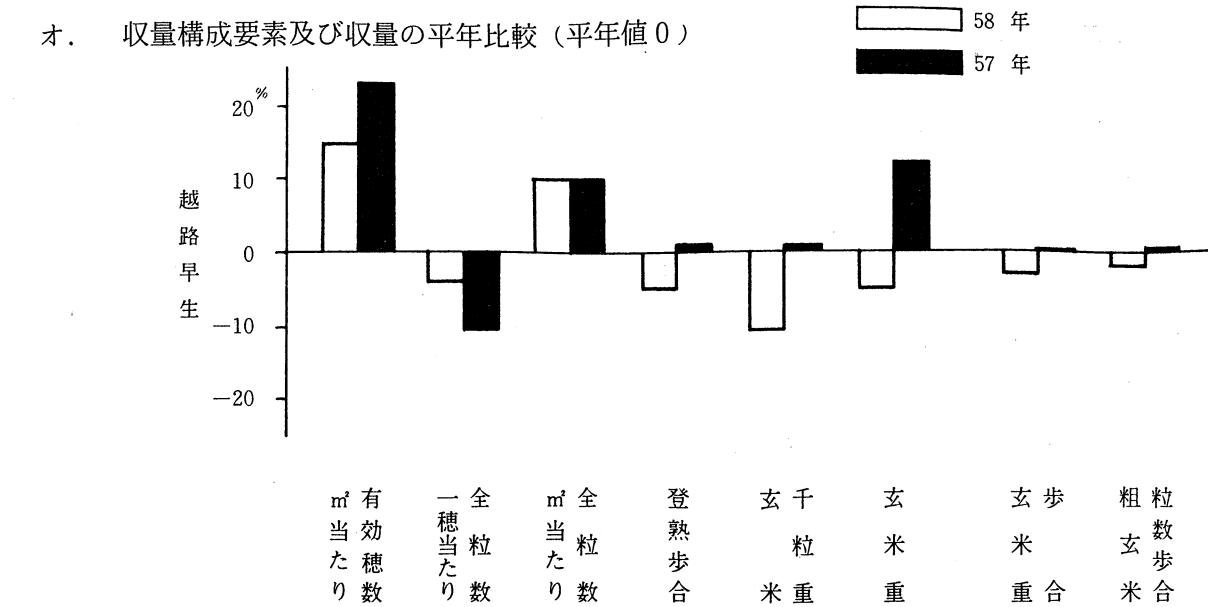
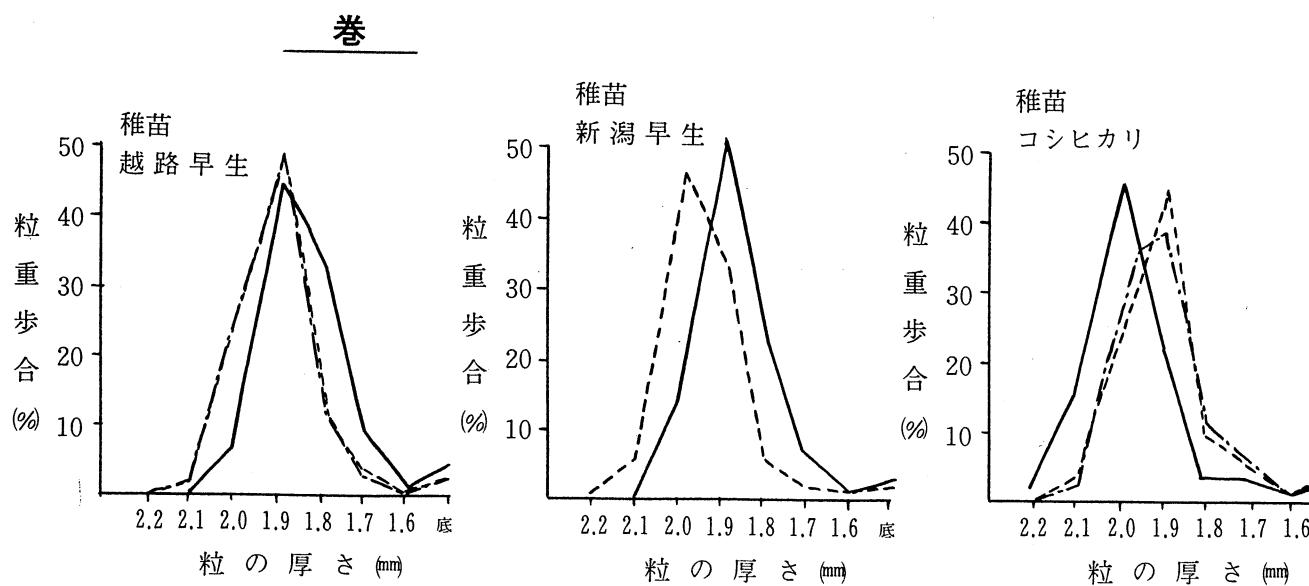
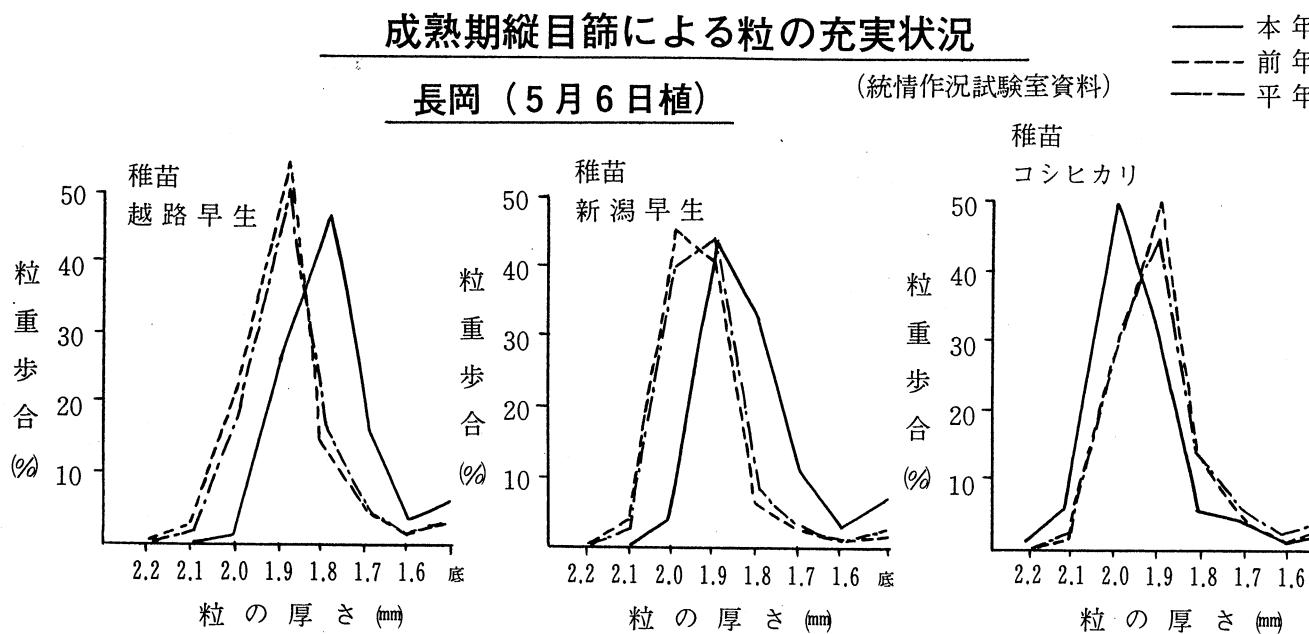
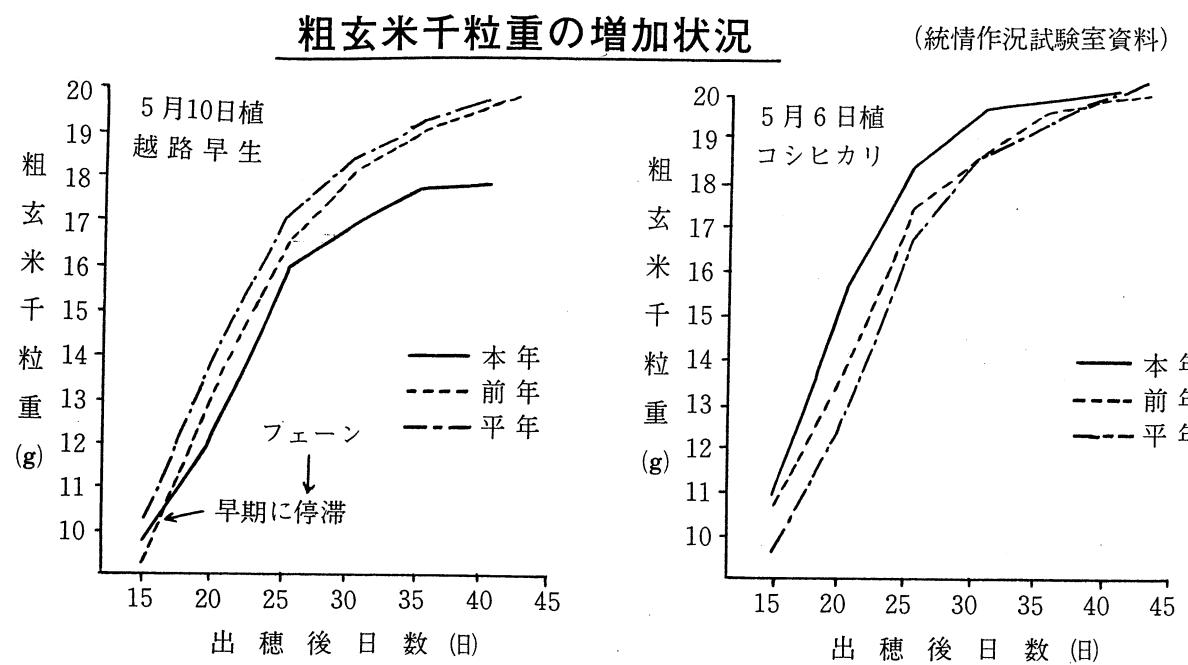
調査項目		1次枝梗数			2次枝梗数			全枝梗数				
年次		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年		
越路早生	9.5	9.6	8.6	17.0	17.0	11.6	26.5	26.6	20.2			
対比		99.0	110.5		100.0	146.5		99.6	131.2			
新潟早生	11.2	10.5	—	13.5	14.0	—	24.0	24.5	—			
対比		106.7	—		96.4	—		97.9	—			
コシヒカリ	9.5	8.0	8.3	14.5	15.0	13.2	24.0	23.6	21.6			
対比		118.7	114.5		96.7	109.8		101.7	111.1			
はつこじ	9.0	—	—	14.5	—	—	23.5	—	—			

#### エ. 収量調査

調査項目		m <sup>2</sup> 当たり有効穂数(本)			m <sup>2</sup> 当たり乾粒重(g)			乾粒千粒重(g)			m <sup>2</sup> 当たり全粒数(100粒)		
年次		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
越路早生	578	616	502	764	860	771	21.3	24.0	23.8	358	358	324	
対比		93.8	115.1		88.8	99.1		88.8	89.5		100	110.7	
新潟早生	472	503	—	760	847	—	22.0	25.0	—	345	349	—	
対比		93.8	—		87.0	—		88.0	—		98.8	—	
コシヒカリ	532	545	459	808	771	720	21.9	22.1	22.2	368	348	324	
対比		97.6	115.9		104.8	112.2		99.1	98.6		105.8	113.9	
はつこじ	680	—	—	893	—	—	20.7	—	—	431	—	—	

調査項目		1穗当たり全粒数(粒)			m <sup>2</sup> 当たり粗玄米重(g)			摺落歩合(%)			玄米粒数歩合(%)		
品種年次		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
越路早生	62.1	58.2	64.9	608	696	622	79.5	80.9	80.1	90.1	94.2	93.6	
対比		106.7	95.7		87.4	97.7		98.3	99.3		92.3	95.6	96.3
新潟早生	73.2	69.5	—	608	713	—	80.0	81.6	—	93.5	—	—	
対比		105.3	—		85.3	—		98.0	—		98.7	—	—
コシヒカリ	69.4	64.0	71.0	643	618	577	79.6	80.1	80.2	88.9	88.0	90.1	
対比		108.4	97.7		104.0	111.4		99.4	99.3		101.0	98.7	
はつこじ	63.4	—	—	720	—	—	80.7	—	—	95.1	—	—	

調査項目		玄米重歩合(%)			m <sup>2</sup> 当たり玄米重(g)			千穀当り収量(g)			粗玄米千粒重(g)		
品種年次		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
越路早生	93.9	96.7	96.6	570	673	600	15.9	18.8	18.6	18.4	20.6	20.4	
対比		97.1	97.2		84.7	95.0		84.6	85.5		89.3	90.2	
新潟早生	95.3	96.5	—	579	688	—	16.8	19.7	—	19.2	21.4	—	
対比		98.8	—		84.2	—		85.3	—		89.7	—	—
コシヒカリ	94.4	94.1	94.8	607	581	547	16.5	16.7	16.9	20.2	19.6	20.5	



- ・  $m^2$ 当たり有効穗数は57年よりやや少ないが、早期茎数が確保されて、平年より大幅に增加了。反面穗数增加により、一穂粒数はやや減少したが、 $m^2$ 当たり全粒数は增加している。
- ・ 登熟歩合は、 $m^2$ 当たり全粒数増に伴ない低下した。玄米千粒重は、早生の越路早生で軽く、中生のコシヒカリでやや重くなっているのが特徴となっている。
- ・ 玄米重歩合は早生で低下し屑米が多く、中生では平年並であり、粗玄米粒数歩合が低下していることは、不稔粒がやや多かったことを示している。
- ・ 本年の作柄は早生級の品種では、登熟歩合の低下（屑米及び不稔粒の増加）と玄米千粒重の減少によるために収量が前年、平年に比較して不振に終った。
- ・ 中生級の品種では、登熟歩合は低下したが、主として不稔粒によるもので、屑米は並で、玄米千粒重はやや重く増収となっている。

## 2. 昭和58年度稻作期間の気象

(観測場所: 新潟県農業大学校)

月	半旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
		58年	平年	平年比	58年	平年	平年比	58年	平年	平年比
4	1	8.9	7.6	1.3	13.8	12.3	1.5	4.0	2.8	1.2
	2	11.6	9.9	1.7	18.4	14.7	3.7	4.8	5.0	-0.2
	3	13.0	10.8	2.2	17.4	15.9	1.5	8.5	5.6	2.9
	4	11.1	11.3	-0.2	15.4	15.7	-0.3	6.7	6.8	-0.1
	5	13.3	12.7	0.6	19.3	18.1	1.2	7.2	7.2	0
	6	16.5	13.3	3.2	23.0	18.0	5.0	9.9	8.6	1.3
5	1	15.1	14.7	0.4	21.4	19.5	1.9	8.8	9.8	-1.0
	2	15.2	15.4	-0.2	20.0	20.1	-0.1	10.3	10.6	-0.3
	3	18.1	16.6	1.5	23.6	21.5	2.1	12.6	11.6	1.0
	4	15.5	16.2	-0.7	20.0	20.5	-0.5	10.9	11.9	-1.0
	5	16.9	16.6	0.3	21.1	21.1	0	12.7	12.0	0.7
	6	19.5	18.4	1.1	25.0	22.7	2.3	13.8	14.0	-0.2
6	1	16.9	19.1	-2.2	20.9	23.4	-2.5	12.9	14.8	-1.9
	2	19.7	20.1	-0.4	24.6	24.1	0.5	14.8	16.1	-1.3
	3	18.7	20.3	-1.6	22.7	23.9	-1.2	14.6	16.7	-2.1
	4	20.5	21.0	-0.5	23.9	24.7	-0.8	17.0	17.2	-0.2
	5	18.5	21.4	-2.9	20.8	24.8	-4.0	16.2	18.0	-1.8
	6	20.9	21.5	-0.6	25.5	24.4	1.1	16.3	18.5	-2.2
7	1	22.0	21.9	0.1	24.9	25.6	-0.7	19.0	18.2	0.8
	2	21.1	23.6	-2.5	24.2	27.3	-3.1	18.1	19.8	-1.7
	3	22.0	23.8	-1.8	26.7	27.3	-0.6	17.2	20.2	-3.0
	4	22.2	24.8	-2.6	24.8	28.3	-3.5	19.6	21.1	-1.5
	5	23.5	26.0	-2.5	25.8	30.3	-4.5	21.1	21.6	-0.5
	6	25.6	26.7	-1.1	28.7	30.9	-2.2	23.5	22.5	1.0
8	1	24.7	26.5	-1.8	28.8	30.4	-1.6	20.4	22.5	-2.1
	2	27.9	25.3	2.6	33.0	29.5	3.5	22.8	21.1	1.7
	3	27.4	26.0	1.4	31.7	30.1	1.6	23.1	21.9	1.2
	4	27.2	25.9	1.3	29.3	30.0	-0.7	25.1	21.7	3.4
	5	23.9	25.4	-1.5	27.0	29.3	-2.3	20.8	21.4	-0.6
	6	26.2	24.6	1.6	30.0	28.9	1.1	22.3	20.2	2.1
9	1	26.6	24.1	2.5	31.1	28.3	2.8	22.0	19.8	2.2
	2	24.0	22.6	1.4	27.9	26.6	1.3	20.0	18.6	1.4
	3	22.8	21.6	1.2	26.1	25.5	0.6	19.5	17.6	1.9
	4	21.2	20.8	0.4	26.0	24.8	1.2	16.3	16.7	-0.3
	5	21.2	19.9	1.3	24.5	23.9	0.6	17.9	15.8	2.1
	6	17.2	18.6	-1.4	20.9	23.1	-2.2	13.5	14.1	-0.6

日 照 時 間 (h)	降 水 量 (mm)			特 記 事 項			
	58年	平年	平年比				
4	27.7	35.4	-7.7	7	15.4	-8.4	4半旬 少照(13.5h)
	42.5	32.9	9.6	—	20.7	-20.7	
	22.7	38.8	-16.1	19	13.6	-5.4	
	13.5	33.9	-20.4	61	22.1	38.9	
	42.1	39.4	2.7	12	10.8	1.2	
	31.7	36.2	-4.5	23	12.6	10.4	
5	45.9	36.9	9.0	6	22.2	-16.2	強風 5月7~8日
	42.0	38.9	3.1	18	21.5	-3.5	最低気温 10°C以下 13日間
	50.5	42.2	8.3	0	32.6	-32.6	降雨日数 5日間
	39.2	36.3	2.9	51	14.1	36.9	
	39.6	40.8	-1.2	0	9.7	-9.7	
	59.0	49.9	9.1	0	9.9	-9.9	
6	40.1	40.8	-0.7	0	10.9	-10.9	入梅 6月13日(平年より4日遅い)
	52.0	39.6	12.4	0	14.7	-14.7	
	34.0	35.6	-1.6	4	12.8	-8.8	
	18.9	38.5	-19.6	40	15.9	24.1	
	16.3	34.9	-18.6	34	28.7	5.3	
	48.9	28.2	20.7	—	44.3	-44.3	
7	10.4	36.1	-25.7	61	37.6	23.4	真夏日 2日
	28.0	34.8	-6.8	25	23.4	1.6	最低気温 20°C以下 18日間
	48.8	31.9	16.9	19	36.2	-17.2	梅雨明け 7月28日(平年より8日遅い)
	20.2	39.0	-18.8	115	41.9	73.1	日照時間 平年の61%
	14.1	46.4	-32.3	105	13.4	91.6	強風 7月31日
	25.7	54.0	-28.3	7	32.1	-25.1	
8	36.7	40.0	-3.3	22	23.7	-1.7	真夏日 16日
	48.3	43.3	5.0	—	27.4	-27.4	熱帯夜 3日
	56.3	41.5	14.8	—	19.2	-19.2	台風5号による高夜温
	17.6	39.0	-21.4	11	33.0	22.0	8月14~17日
	22.0	36.0	-14.0	92	25.1	66.9	
	50.7	44.5	6.2	5	57.4	-52.4	
9	42.3	36.8	5.5	—	17.5	-17.5	真夏日(9月上旬) 5日
	31.4	29.3	2.1	41	31.8	9.2	
	25.4	29.5	-4.1	25	29.3	-4.3	
	40.2	32.6	7.6	11	27.5	-16.5	
	30.9	27.2	3.7	118	23.2	94.8	
	24.4	29.1	-4.7	38	24.3	13.7	

## 3. 昭和58年水稻品種別作付状況

(新潟食糧事務所吉田支所資料)

順位	区分	都市町村名 品種名	西蒲原郡		管内8市町村		燕市		分水町			
			a	%	a	%	a	%	a	%		
1	1類・奨	コシヒカリ	493,921	31.4	1	382,244	31.5	1	54,394	29.5		
2	2類・奨	新潟早生	320,056	20.4	2	257,041	21.2	2	39,685	21.5		
3		アキヒカリ	295,203	18.8	3	240,507	19.8	3	23,053	12.5		
4	2類・奨	トドロキワセ	146,878	9.3	5	81,339	6.7	8	5,730	3.1		
5	1類・奨	越路早生	115,500	7.3	4	84,275	6.9	4	19,169	10.4		
6	仕・奨	はつこしじ	45,319	2.9	6	37,053	3.1	5	14,653	8.0		
7		越南101号	22,373	1.4	7	20,810	1.7	6	10,746	5.8		
8		むつかおり	10,519	0.7	9	5,295	0.4	7	680	0.4		
9		はなひかり	8,437	0.5	8	8,036	0.7	9	3,636	2.0		
10		奥羽302号	6,243	0.4	10	5,264	0.4	10	2,267	1.2		
11	1類・奨	越みのり	4,357	0.3		3,719	0.3		344	0.2		
12	酒・奨	五百万石	3,762	0.2		3,762	0.3		—	—		
13		北陸100号	1,689	0.1		1,582	0.1		260	0.1		
14	奨	アキニシキ	1,546	0.1		1,496	0.1		342	0.2		
15		アキユタカ	1,013			577			—	—		
16	2類・奨	ホウネンワセ	696			457			—	30		
17	その他の		4,010	0.3		4,399	0.4		354	0.2		
うるち計			1,481,522	94.2		1,137,856	93.7		175,313	95.2		
									142,500	92.9		
1		ヒデコモチ	29,693	1.9		26,723	2.2		3,147	1.7		
2		ヒメノモチ	26,199	1.7		22,764	1.9		3,002	1.6		
3	奨	こがねもち	23,934	1.5		16,773	1.4		1,966	1.1		
4		とみちから	7,915	0.5		7,915	0.7		181	—		
5	奨	初音もち	1,551	0.1		1,330	0.1		329	0.2		
6	その他の		1,167			971			298	0.1		
もち計			90,459	5.8		76,476	6.3		8,923	4.8		
									10,940	7.1		
総計			1,571,981	100		1,214,332	100		184,236	100		
									153,440	100		
奨励品種普及率						73.5			71.6			
									74.2			
									70.1			
銘柄米品種普及率						68.7			66.6			
									64.7			
									65.9			

吉田町		弥彦村		岩室村		巻町		西川町		潟東村	
1	55,032	32.8	2	23,126	29.1	2	31,345	28.7	1	80,353	35.7
3	28,719	17.1	3	16,386	20.7	3	19,493	17.9	3	43,140	19.2
2	51,483	30.7	1	23,754	29.9	1	37,117	34.0	2	48,884	21.7
5	3,915	2.3	5	2,503	3.2	6	2,078	1.9	4	19,745	8.8
4	12,095	7.2	4	3,900	4.9	5	2,154	2.0	5	9,509	4.2
6	1,653	1.0		753	0.9	8	767	0.7	6	4,694	2.1
8	1,329	0.8	6	1,364	1.7	9	510	0.5		176	8
	145		10	254	0.3	10	344	0.3	8	689	0.3
9	618	0.4	8	765	1.0	7	1,049	1.0	7	1,169	0.5
10	255	0.1					50			—	9
7	1,503	0.9	9	409	0.5		—	9	487	0.2	320
	—		232	0.3	4	3,123	2.9	10	407	0.2	—
	50		7	853	1.1		224	0.2	35		—
	70					62		30		123	37
	45						29		45	—	50
	1,022	0.6		120	0.2		210	0.2	1,796	0.8	200
	157,889	94.0		74,419	93.8		98,526	90.3	211,237	93.8	141,575
									95.0		136,397
											93.4
	3,502	2.1		1,134	1.4		5,946	5.4	7,701	3.4	1,087
	3,505	2.1		1,851	2.3		2,508	2.3	3,695	1.6	2,410
	2,156	1.3		1,376	1.7		2,059	1.9	2,292	1.0	3,801
	737	0.4		386	0.5		15		120		—
	109			40			53		88		158
						140	0.2	54		29	45
											201
	10,054	6.0		4,927	6.2		10,635	9.7	13,925	6.2	7,501
	167,943	100		79,346	100		109,161	100	225,162	100	149,076
									100		145,968
						62.6		61.3		56.0	90.0
									714		78.8
						60.3		58.3		50.5	86.4
									68.1		71.1

(注) 奨……奨励品種 1, 2類他は3類

#### 4. 昭和58年度産米検査成績

11月20日現在 単位: 60kg個  
(新潟食糧事務所吉田支所)

市町村名	項目 集荷業者名	限度数量	予約数量	検査総数	等級比率(%)				限度数量 (%)	予約対比 (%)
					1	2	3	規格外		
燕市	燕市農協 小池農協 小中川農協 松長農協		46,056 40,096 38,608 27,078	42,752 36,362 36,798 25,889	73.4 72.0 77.0 73.2	25.4 26.4 22.2 24.8	0.9 0.8 0.4 1.6	0.3 0.8 0.4 0.4		92.8 90.7 95.6 95.6
	計	151,935	145,838	141,801	73.9	24.7	0.9	0.5	93.3	93.4
分水町	分水町農協 (吉田農協) 大河津農協		101,040 7,591 4,954	93,662 7,328 4,722	56.1 58.9 50.7	35.6 30.4 42.4	7.7 9.5 6.8	0.6 1.2 0.1		92.7 96.5 95.3
	計	116,443	113,585	105,712	55.7	35.9	7.8	0.6	90.8	93.1
吉田町	吉田町農協 (分水農協) 渡辺武男		137,720 1,321 2,129	135,910 1,178 2,067	70.1 44.5 71.5	27.7 49.4 27.0	1.8 6.1 1.5	0.4 — —		98.7 89.2 97.1
	計	142,509	141,170	139,155	69.9	27.9	1.8	0.4	97.6	98.6
弥彦村	弥彦村農協	63,762	63,762	56,745	53.0	41.1	4.8	1.1	89.0	89.0
岩室村	和納農協 岩室村農協 岩室米穀		25,836 57,458 5,659	25,649 54,062 5,181	80.3 73.9 71.9	18.9 21.2 26.5	0.3 4.3 1.6	0.5 0.6 —		99.3 94.1 91.6
	計	88,953	88,953	84,892	75.7	20.9	2.9	0.5	95.4	95.4
卷町	卷町農協 福木岡農協 鎧郷農協 卷米穀		154,323 15,971 4,019 918	151,751 14,600 4,018 900	74.3 67.0 93.2 85.6	25.0 29.1 6.8 14.4	0.6 3.4 0.5 —	0.1 0.5 — —		98.3 91.4 100.0 98.0
	計	176,462	175,232	171,269	74.2	24.9	0.8	0.1	97.1	97.7
西川町	曾根農協 鎧郷農協 升鴻農協		34,847 49,115 39,325	33,574 47,888 37,718	83.4 89.4 72.7	15.9 10.4 26.5	0.6 0.2 0.6	0.1 0.0 0.2		96.3 97.5 95.9
	計	123,287	123,287	119,180	82.4	17.0	0.4	0.2	96.7	96.7
潟東村	潟東村農協	121,156	121,156	113,196	65.3	33.2	1.4	0.1	93.4	93.4
管内合計		984,507	978,983	931,951	70.2	27.2	2.2	0.4	94.7	95.2
西蒲原郡合計		1,275,575	1,268,536	1,212,652	70.0	27.6	2.0	0.4	95.1	95.6

注) 限度数量対比は規格外も含めて算出した。

1268,539

#### 5. 水稻土壤中直播栽培実施状況

市町村名	部落名	氏名	品種名	栽培面積	実収量 kg/10a	出芽苗立状況				坪刈穂数	播種機
						播種期	播種量	苗立本数	出苗歩		
弥彦村	麓二区	麓二区生産組合 本多寅英	新潟早生	アール30	kg 510	月日 5.5	kg/10a 3.00	本/m <sup>2</sup> 58.0	% 50.4	本/m <sup>2</sup> 358	クボタ8条
			新潟早生	30	510	5.9	3.50	62.0	45.9	347	三菱6条
吉田町	下中野	農協青年部 宮路祐一郎	はつこじ	30	510	5.9	3.50	90.0	67.0	666	三菱6条
	杉柳	川村重男	トドロキワセ	10	540	5.6	4.20	56.1	34.1	454	ヤンマー6条
燕市	花見	齊藤満	はつこじ	10	540	5.8	3.50	80.8	60.0	511	ヤンマー6条
			コシヒカリ	30	513	5.8	3.74	123.0	87.0	415	
市	松橋	木原善藏	むつかおり	45	718	5.4	4.00	94.0	59.8	524	クボタ8条
			新潟早生	67	622	5.4	4.00	87.0	58.5	419	
			コシヒカリ	30	497	5.4	4.50	127.0	72.6	478	
岩室村	原	大岩一義	越路早生	10	540	5.11	4.70	128.0	71.0	636	三菱6条
	油島	阿部公男	アキヒカリ	20	597	5.2	4.20	—	—	—	クボタ8条
西川町	善光寺	渡辺泰行	新潟早生	40	480	5.10	4.00	97.0	63.0	—	ヤンマー6条
	浦村	笛崎一栄	新潟早生	20	500	5.10	4.00	94.0	61.0	—	
巻町	松野尾	中原正弘	トドロキワセ	10	550	5.10	3.50	70.0	51.1	526	ヤンマー6条
	稻島	石崎作一	はつこじ	10	510	5.9	3.50	92.4	67.4	450	
	仁箇	赤川毅	アキヒカリ	20	570	5.9	4.10	78.8	49.9	465	
	仁箇	倉沢鉄男	はつこじ	20	540	5.9	4.20	73.7	45.6	481	
	馬堀	転作麦生産組合 中村淳乃助	アキヒカリ	20	480	5.7	3.54	25.4	18.3	—	
	十二原	相馬寅市	新潟早生	20	598	5.6	3.69	98.6	68.0	415	
	河井	長谷川松男	新潟早生	20	540	5.6	2.87	73.2	64.8	—	
	河井	第2生産組合 鈴木敏光	新潟早生	40	555	5.6	2.46	43.5	44.8	—	
	赤鋸	笛川一明	新潟早生	20	546	5.10	3.40	90.6	68.1	462	
	葉萱場	真島憲一	アキヒカリ	20	570	5.6	3.90	65.0	42.5	426	
町	13班	久保田勝也	アキヒカリ	20	606	5.6	3.40	71.8	54.0	396	ヤンマー6条
	12班	久保田秋夫	はつこじ	40	535	5.10	3.85	65.7	43.5	498	
	6班	石山吉則	新潟早生	20	480	5.3	3.20	58.5	46.8	416	
			コシヒカリ	10	—	5.3	2.90	55.3	48.5	—	
2班	佐藤完爾	トドロキワセ	80	528	5.3	3.17	52.9	42.7	398	ヤンマー6条	
			30	528	5.3	3.17	60.1	48.5	432	ヤンマー6条	
			計(平均)	772	28点平均 (543.3kg)		29点平均 (3.64kg)				

## 6. 農家経済の動向（西蒲原）

(1) 農家経済の総括（農家1戸当たり平均）

項目	年次 単位	年次 単位										県 57
		40	45	50	53	54	55	56	57	57	57	
農業所得	千円	642.8	999.4	2,713.7	2,998.0	2,810.0	3,104.9	2,905.2	3,627.5	1,053.6		
農外所得	"	385.4	729.0	1,883.3	1,617.8	1,648.3	1,242.0	1,629.1	1,753.0	3,520.0		
農家所得	"	1,028.2	1,728.2	4,597.0	4,615.8	4,458.3	4,346.9	4,534.3	5,380.5	4,573.6		
租税、公課、諸負担	"	72.8	155.9	401.6	670.5	729.5	780.1	871.4	895.8	782.2		
出稼、被贈、扶助等の収入	"	32.7	97.0	303.1	468.7	353.3	712.3	1,097.3	1,024.8	1,044.1		
可処分所得	"	988.1	1,669.5	4,498.5	4,414.0	4,082.1	4,279.1	4,760.2	5,519.5	4,835.5		
家計費	"	805.1	1,443.7	3,652.7	3,596.8	4,002.5	4,003.9	4,650.6	4,920.7	4,109.5		
農家経済余剰	"	182.9	226.5	845.8	817.2	79.6	275.2	109.6	598.8	726.0		

(2) 農家経済の分析指標（農家1戸当たり平均）

項目	年次 単位	年次 単位										県 57
		40	45	50	53	54	55	56	57	57	57	
農業依存度	%	62.5	57.8	59.0	65.0	63.0	71.4	64.1	67.4	23.0		
家計費充足率	"	79.8	69.2	74.0	83.4	70.2	77.5	62.5	73.7	25.6		
農業所得率	"	62.6	57.0	62.0	50.8	47.7	44.6	43.2	45.4	43.3		
生産性	農業労働 (10時間当たり)	円	1,991	3,134	11,424	9,278	8,686	10,208	9,804	11,913		
	経営耕地 (10アール当たり)	千円	41.5	48.6	114.0	107.1	100.2	105.2	98.5	122.7		
	農業固定資本 (1,000円当たり)	円	915	528	1,600	811.0	635	657	582	755		

資料：統計情報事務所「農家経済調査」

(3) 作業別水稻作労働時間の年次比較

(10アール当たり：時間)

年次	作業名	種子予措	苗代一切	本整田耕起地	元肥	田植	追肥	除草	か管ん排水理	防除	稻稻稻干刈干刈	ももみ乾燥り	総時労働間
西	45	0.5	7.7	7.6	5.0	21.6	1.8	13.7	6.1	3.2	18.4	4.9	90.5
	50	0.5	5.4	5.7	2.0	12.9	1.5	6.7	6.7	2.3	10.0	4.3	58.0
	52	0.5	7.1	6.5	1.2	8.0	1.6	3.8	7.3	1.7	7.5	4.0	49.2
	53	0.4	7.2	5.8	1.3	6.3	1.3	3.6	7.0	1.1	7.6	4.0	45.6
	54	0.5	6.2	5.6	1.5	6.7	1.7	3.7	6.8	1.7	7.7	4.3	46.4
	55	0.5	5.9	5.4	1.1	6.3	1.9	2.9	5.8	1.3	5.6	3.7	40.4
	56	0.7	5.8	4.8	1.3	6.1	2.5	3.2	6.6	1.3	6.5	3.5	42.3
	57	0.4	5.5	5.3	1.4	5.7	2.3	4.5	6.1	1.3	6.7	3.8	43.0
県	57	0.5	6.2	6.9	2.1	7.6	1.6	5.7	9.3	1.4	11.7	4.0	57.0

(4) 米生産費の動向（10アール当り）

項目	年次	西蒲原原							県 57
		50	52	53	54	55	56	57	
種苗費	円	1,324	2,163	2,121	2,594	2,791	3,667	4,248	3,144
肥料費	"	4,850	5,758	6,303	6,095	6,397	9,854	9,096	8,859
農業薬剤費	"	4,293	5,813	5,746	7,899	7,368	7,114	6,768	5,821
光熱動力費	"	2,697	2,983	3,200	3,703	5,184	6,112	6,496	5,178
諸材料費	"	865	685	675	678	691	1,159	1,626	1,801
土地改良及び水利費	"	6,492	9,427	11,047	12,192	12,572	14,160	12,323	7,699
賃借料及び料金	"	2,095	3,212	5,113	4,898	4,957	5,666	5,139	6,693
建物費	"	2,467	3,245	3,872	3,783	4,765	5,083	3,401	4,905
農具費	"	21,064	24,354	30,544	35,215	38,296	37,455	38,279	40,866
労働費	"	24,124	33,077	31,748	33,886	30,529	33,721	35,929	53,742
うち家族	"	23,340	32,137	31,400	33,497	30,106	33,721	35,929	53,020
費用合計	"	70,271	90,717	100,369	110,942	113,551	123,991	123,305	138,708
副産物価格	"	1,561	1,225	1,854	1,389	1,204	3,053	1,556	3,350
第1次生産費	"	68,710	89,492	98,515	109,553	112,347	120,938	121,749	135,358
資本利子	"	4,041	4,598	5,377	5,607	5,378	5,681	6,005	7,540
地代	"	54,428	63,366	63,229	67,534	67,119	69,046	74,670	43,145
第2生産費	"	127,179	157,456	167,121	182,694	184,844	195,665	202,424	186,043
60kg当り第2次生産費	"						21,168	20,231	20,730

(5) 分析資料

主産物10アール当り 収量	kg	603	597	550	564	586	555	600	539

<

7. 昭和58年度 管内におけるコシヒカリ団地設置状況

団地名及び組織名	所在地	代表者氏名	参加戸数 (戸)	団地の面積 (ha)	設置年	作業の個人、共同別
小池コシヒカリ団地	燕市小池	山崎敏男	20	9.4	56	個人
中組	" 中組	熊倉真	8	4.5	56	育苗、田植共同
杉柳新田	" 杉柳	高橋信吾	14	7.3	56	個人
前田	" 道金	袖山登司夫	10	5.6	56	"
裏田	" "	古川吉治	14	6.5	57	"
八王寺	" 八王寺	本宮藤一郎	9	4.3	57	"
蔵関	" 蔵関	宗村勉	7	4.0	56	"
大関	" 大関	本間道雄	11	4.9	57	"
小関第1	" 小関	伊藤守一	12	10.0	56	"
小関第2	" "	小林栄吉	3	3.3	56	"
柳山	" 柳山	中村久一郎	11	4.6	56	"
次新	" 次新	桜井正一	11	3.5	57	"
勘新	" 勘新	石川一也	10	5.2	58	"
花見	" 花見	久保田与三郎	23	15.0	57	"
藤ノ曲	" 藤ノ曲	中山栄一	3	3.0	58	"
千刈生産組合	" 長所	高波義市	3	2.0	57	共同
小計	16団地		169	93.1		
真木山コシヒカリ団地	分水町真木山	遠藤九平	10	5.3	55	個人
源八新田	" 源八新田	今井文夫	12	9.2	58	"
中島	" 中島	小林寛	7	3.0	55	"
牧ヶ花	" 牧ヶ花	井良利英	10	6.2	57	"
熊上	" 熊森	長岡雄	7	3.0	55	"
熊下	" "	馬場芳一	5	2.2	55	"
下郷屋	" 横田	野崎茂男	11	6.9	55	"
小計	7団地		62	35.8		
三ヶ字コシヒカリ団地 第1	吉田町溝 分水町佐善	土田賢一	47	50.0	53	協定栽培
三ヶ字 第2	吉田町溝古新 分水町佐善	渡辺広	30	10.0	58	"
上粟生津	吉田町粟生津	後藤弘	29	10.0	57	"
高木	" 高木	渋川喜郎	20	10.0	58	"
※上組	" 佐渡山	加藤秀夫	31	17.6	53	"
西楳	" 西楳	堀田平生	17	15.0	54	"
野本	" 野本	樋郡政雄	35	20.0	58	"
小計	7団地		209	132.6		

団地名及び組織名	所在地	代表者氏名	参加戸数 (戸)	団地の面積 (ha)	設置年	作業の個人、共同別
鴨原コシヒカリ団地	弥彦村鴨原	若井岱三	7	3.0	55	協定栽培
麓一区(横枕)"	" 麓一区	青木三次	5	3.0	56	"
麓一区(尻付)"	" 麓一区	本多清一郎	6	5.0	56	"
麓二区第1"	" 麓二区	小林正雄	2	3.0	55	"
麓二区第2"	" 麓二区	本多寅英	3	3.0	55	"
井田第1"	" 井田	竹野勝	3	3.0	56	"
井田第2"	" 井田	野本一郎	3	3.0	56	"
井田第3"	" 井田	阿部孝次郎	2	3.0	56	"
山崎第1"	" 山崎	解良信男	8	3.0	55	"
山崎第2"	" 山崎	石井晃	9	5.0	55	"
村山"	" 村山	武石宅一	4	3.0	55	"
境江"	" 境江	橋本善松	11	3.0	56	"
大戸"	" 大戸	石川敏	6	3.0	55	"
小計	13団地		69	43.0		
夏井コシヒカリ モデル団地	岩室村夏井	大治与志男	32	10.0	54	個人
西中コシヒカリ モデル団地	" 西中	山田隆	14	10.0	54	"
西中コシヒカリ団地	" 西中	竹内巧	8	5.0	54	"
潟上"	" 潟上	齐藤定雄	11	5.0	54	"
西船越"	" 西船越	槇田仁	16	7.5	54	"
夏井"	" 夏井	山岸忠士	10	5.0	56	"
榮"	" 荣	本間作太郎	15	10.0	57	"
猿ヶ瀬"	" 猿ヶ瀬	山上祝男	8	5.0	57	"
横曾根"	" 横曾根	成田秀一	10	6.0	58	"
原"	" 原	大岩一義	16	15.0	56	"
小計	10団地		140	78.5		
堀山農家組合	巻町堀山	竹之内敏雄	68	14.0	57	個人
中郷屋"	" 中郷屋	齊藤伝平	24	20.0	55	"
下和納"	" 下和納	石田信次	23	10.0	55	"
安尻良質米生産組合	" 安尻	長野幸栄	22	18.0	55	"
割前農家組合	" 割前	内藤金一郎	13	17.0	55	"
葉萱場"	" 葉萱場	沢栗昭	15	10.0	55	"
鷺ノ木"	" 鷺ノ木	笹川耕一	45	7.5	55	"
仁箇"	" 仁箇	岸本一男	84	35.0	55	"
布目"	" 布目	藤田郡治	20	8.0	58	"
松山"	" 松山	齊藤一雄	54	5.0	57	"
大原"	" 大原	山川力	45	5.0	57	"
松野尾"	" 松野尾	岩崎安雄	50	4.0	57	"

団地名及び組織名	所在地	代表者氏名	参加戸数(戸)	団地の面積(ha)	設置年	作業の個人、共同別
馬堀下組農家組合	巻町馬堀	奥村長一	84	3.5	55	個人
馬堀西下組	馬堀	伊藤一二	54	10.5	55	"
馬堀高畠	馬堀	高岡 稔	45	9.0	55	"
馬堀中組	馬堀	伊藤哲夫	19	8.5	55	"
馬堀十二原	馬堀	亀山昇	26	11.0	55	"
馬堀上組	馬堀	豊田秀明	22	7.0	55	"
並岡	並岡	鶴巻虎雄	26	21.0	55	"
桜林	桜林	田村卓司	20	12.0	55	"
栄町	栄町	川井鉄治	27	16.0	55	"
潟頭	潟頭	渡辺三四四	56	9.0	55	"
漆山1の丁	漆山	高橋潔	27	55	"	35.0
漆山2の丁	漆山	小黒広喜	34	55	"	
漆山3の丁	漆山	小林作衛	35	55	"	
漆山4の丁	漆山	阿部直司	21	55	"	
漆山5の丁	漆山	安田一夫	31	55	"	
漆山6の丁	漆山	灰野穆	22	55	"	
漆山7の丁	漆山	伊藤龍一	27	55	"	
漆山8の丁	漆山	笠原三二	39	55	"	
東町	東町	小林栄一	41	12.5	57	"
河井	河井	土田栄一	55	16.0	55	"
柿島	柿島	小熊辰夫	21	9.0	55	"
山島	山島	荒川重雄	10	11.5	55	"
小計	34団地		1,205	345.0		
善光寺コシヒカリ団地	西川町善光寺	土田国男	24	18.0	54	個人
見帶	見帶	近藤賢策	25	16.0	54	"
六分	六分	斎田忠男	27	40.0	54	"
旗屋	旗屋	田中一男	23	5.0	57	"
川崎	川崎	大島紀一	20	14.0	56	"
天竺堂	天竺堂	大滝総一郎	25	28.0	57	"
新田	兵右エ門	神田誠一	13	7.0	55	"
下組	升潟下組	樋口勇一	18	6.0	55	"
小計	8団地		175	134.0		
五ノ上コシヒカリ団地	潟東村五ノ上	高島紀久雄	40	15.0	56	個人
遠藤	遠藤	星野圭一	21	8.0	58	"
小計	2団地		61	23.0		
合計	97団地		2,090	885.0		

## 8. 水田利用再編対策関係

58年度水田転作は、全国的な3年続いた不作から前年度より管内では 325.7ha 減の配分緩和がされ、転作実施等面積は2,108.6haで、目標面積の104.5%となった。作目別作付では特定作物70%で、麦類が最も多く54%，大豆8.7%，飼料作物6.2%で、集団化の中心となっている。

転作の定着化と収益性向上をはかるためには、今後大麦の連作障害回避対策として、跡作に大豆や飼料作物の導入、枝豆+ブロックコリー等の輪作体系を推進するとともに、ブロックローテーションによる転作の推進も検討しなければならない。

昭和58年度転作実施状況一覧表（主要作物別）(58.7.30現在)

(単位 a)

作物名 市町村名	特 定 作 物							
	大 豆	飼料作物	うち青刈稻	大 麦	小 麦	そ ば	ハトムギ	小 計
燕 市	3,152	154	21	12,717	388	—	2	16,413
分 水 町	2,093	923	48	14,397	3,143	465	—	21,021
吉 田 町	1,189	255	39	19,972	1,368	28	—	22,812
弥 彦 村	955	282	94	4,440	—	1,718	—	7,395
巻 町	2,424	2,190	1,101	19,313	661	27	9	24,624
岩 室 村	1,844	2,999	696	10,434	233	—	60	15,570
西 川 町	4,087	5,060	2,734	9,084	936	54	6	19,227
潟 東 村	2,694	1,306	264	14,551	1,247	—	—	19,798
合 計	18,438	13,169	4,997	104,908	7,976	2,292	77	146,860
作物名 市町村名	永 年 作 物				一 般 作 物			
	果 樹	そ の 他	小 計	野 菜	加 工 用 青 刈 稲	そ の 他	小 計	転作合計
燕 市	40	—	40	7,412	1,389	412	9,213	25,666
分 水 町	37	—	37	1,329	266	153	1,748	22,806
吉 田 町	33	—	33	2,536	453	277	3,266	26,111
弥 彦 村	—	—	—	4,570	397	465	5,432	12,827
巻 町	146	—	146	4,658	1,710	764	7,132	31,902
岩 室 村	124	—	124	2,191	567	189	2,947	18,641
西 川 町	29	—	29	2,410	1,752	570	4,732	23,988
潟 東 村	120	—	120	2,890	1,911	276	5,077	24,995
合 計	529	—	529	27,996	8,445	3,106	39,547	186,936

(注) 転作等目標面積 2,018.1ha 転作等実施面積 2,108.6ha(104.5%) 水田預託面積 237.4ha 計画加算面積 1,587.7ha(75.4%) 団地加算面積 994.4ha(47.2%)